



か ご し ま し
鹿 児 島 市 の

か わ ざ か な ず か ん
川 魚 図 鑑

松沼 瑞樹

福井 美乃

本村 浩之



鹿児島大学総合研究博物館

序 文

網や釣り竿を持って川へ出かけてみましょう。流れに目をこらしてぱっとひとすくい、ぴくっとひきが来たらすぐに竿をあげてみましょう。さて、どんな魚がとれたでしょうか？

鹿児島市には、甲突川と永田川を代表として、多くの川が流れています。川は、多くの生きものを育み、また海にながれこむことで海の生きものも育みます。鹿児島市の町なかを流れる甲突川や永田川では、ドジョウやナマズ、メダカがみられます。ナマズの子どもは、田んぼで成長します。ドジョウは田んぼや田んぼとつながる水路の泥の中にすんでいます。こういった魚たちは、川とそのまわりの環境が変化すると真っ先に姿を消してしまいます。町なかであるにもかかわらず、ドジョウやメダカたちが見られる川がたくさんあることは、鹿児島市内を流れる川が豊かであるからでしょう。

近年になり、永田川ではタイリクバラタナゴやナイルティラピアが、松本ダム湖ではブルーギルとオオクチバスがみられるようになりました。これらの魚は、もともと日本にはおらず人の手によって海外からもちこまれた魚たちです。これら外来種は、日本にもとからいた生きものと食べ物をめぐって競合したり、交雑したりすることから駆除の対象になることがあります。しかし、ティラピアは食糧難の時代に食用として、オオクチバスは新しい釣り魚となることを期待されて、人間の生活をよくするために持ち込まれた生きものです。川とそこにいる魚を通して、こういった歴史を垣間見ることも出来ます。

この図鑑は、かごしま市民環境会議が長年にわたって行ってきた、鹿児島市内の川や海岸の自然観察会の成果をもとに、鹿児島市の川でみられる魚と、観察会が行われる稲荷川の河口から近い海岸で観察できる海水魚のうち 79 種を紹介しました。本書が読者の皆さんが川や海に親しみをもち、市内にある身近な環境について考えるきっかけになれば幸いです。

川や海の魚たちとの、素敵な出会いがありますように！

2016 年 7 月 7 日

編者を代表して

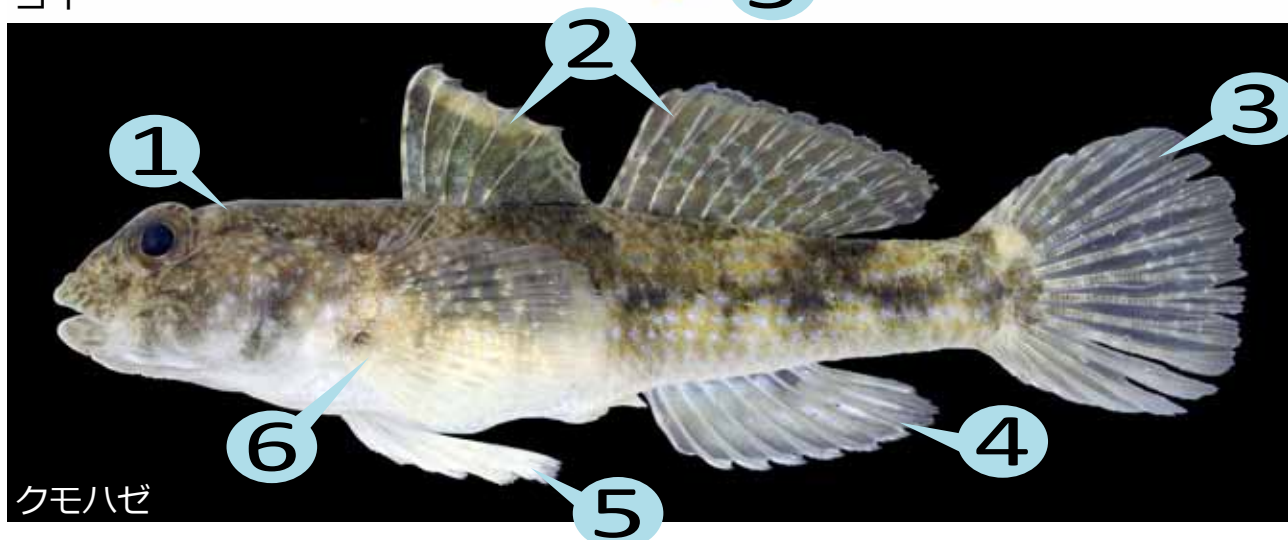
福井美乃

魚のからだ

●^{ひれ} 鰭の名前



コイ



クモハゼ

1: ^{あたま} 頭 2: ^{せびれ} 背鰭 3: ^{おびれ} 尾鰭 4: ^{しりびれ} 臀鰭 5: ^{はらびれ} 腹鰭 6: ^{むなびれ} 胸鰭

●^{おび} 帯もようの名前



オヤビツチャ

・ ^{おうたい} 横帯 (オヤビツチャ)



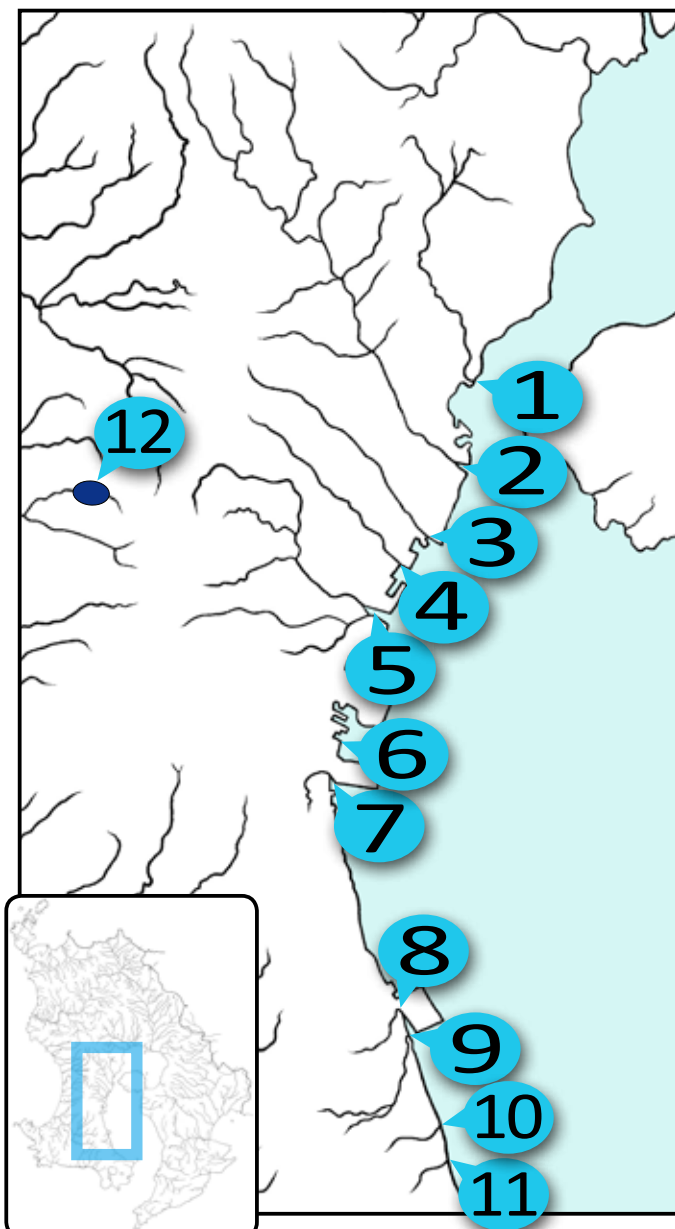
クロホシフエダイ

・ ^{じゅうたい} 縦帯 (クロホシフエダイ)

鹿児島市内の川でみられる魚と、^{いなり}稲荷川の横の海岸でみられる海の魚^{けいさい}を掲載しました。

- **川**：川魚 **海**：海魚 **外**：^{がいらいしゅ}外来種(人の手によって持ちこまれた生物)
- ^{とくちょう}特徴：魚の色や形の特徴
- ^{ぶんぷ}分布と生態：魚がすんでいる場所や何を食べるかなどの^{せつめい}説明
- メモ：そのほかの^{せつめい}説明
- 鹿児島市の地図：赤丸は魚がみられる場所を^{しめ}示す

鹿児島市の川の名前



- ^{いなり}稲荷川
- ^{こうつき}甲突川
- ^{しん}新川
- ^{わきた}脇田川
- ^{ながた}永田川
- ^{しょうじ}障子川
- ^{ごいの}五位野川
- ^{あたご}愛宕川
- ^{やはた}八幡川
- ^{けそこ}貝底川
- ^{すず}鈴川
- ^{まつもと}松元ダム湖 (^{ながよし}永吉川)

二ホンウナギ 川 海

Anguilla japonica



■ 二ホンウナギ KAUM-I. 39062, 全長 80.9 mm 種子島



■ 二ホンウナギ KAUM-I. 935, 全長 200 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体は細長く、粘液でぬるぬるする。全身が茶色で、腹部は白色。

分布と生態 川の河口など下流でよくみられ、石の下などにひそむ。鹿児島市では稲荷川、甲突川、永田川など多くの川の河口や下流で見られる。

メモ おいしい魚で蒲焼などにして食べられ、鹿児島県では養殖が盛んにおこなわれている。体の粘液に弱い毒があるので、二ホンウナギをさわった手で目をこすらないようにしましょう。

鹿児島県には二ホンウナギのほかに、ニューギニアウナギとオオウナギが分布するが、食用にされるのは二ホンウナギがほとんど。

(松沼)





ギンブナ KAUM-I. 253, 体長 120.0 mm 鹿児島市 永田川



ギンブナ KAUM-I. 31545, 体長 101.5 mm 鹿児島市 永田川



ギンブナ KAUM-I. 56882, 体長 38.6 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体は高い。大きな背^{せびれ}鰭がひとつある。全身が銀色がかった茶色。大きなものでは 30 cm をこえる。

分布と生態 川の流れがゆるやかな中^{ちゅうりゅう}流や下^{かりゅう}流、池や沼にすむ。田んぼや、田んぼに通じる細い水路でもみられる。鹿児島市では甲突^{こうつき}川、新^{しん}川、脇^{わきた}田川、永^{ながた}田川と、多くの川でみられる。

メモ 日本の川や池でよくみられる代表的な淡水魚。鹿児島県ではあまり食用にされないが、食べられる魚。

永^{ながた}田川では、うろこ^{うろこ}が透明な突然変異^{とつぜんへんい}のギンブナがとれた(右下の写真)。赤い鰓^{えら}がすけて見える。

コイとよく似^にているが、ギンブナにはヒゲがない。(松沼)





■ コイ KAUM-I. 19268, 体長 332.3 mm 鹿児島市 松元ダム湖



■ コイ KAUM-I. 21237, 体長 313.6 mm 鹿児島市 松元ダム湖



■ コイ KAUM-I. 56880, 体長 77.0 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体は太い。大きな背^{せびれ}鰭がひとつある。鱗^{うろこ}はかたく頑丈^{がんじょう}。口に2本のヒゲをもつ。全身が光沢^{こうたく}のある茶色。大きなものでは50 cmくらいになる。

分布と生態 流れがおだやかな川の中流^{ちゅうりゅう}や下流^{かりゅう}、池や沼にすむ。ダム湖でもよくみられる。雑食性^{ざっしょくせい}でなんでもよく食べる。鹿児島市では甲突川^{こうつき}、永田川^{ながた}、松元ダム湖^{まつもとこ}から記録^{きろく}されている。

メモ 日本全国でみられる代表的な川魚。しかし、日本でみられるコイのほとんどが、人の手によってアジア大陸^{たいりく}からもちこまれたもので、元からそこにすんでいたものではないことが分かっている。日本にもともとすんでいたコイは、琵琶湖^{びわこ}にだけ生息^{せいそく}することが知られている。(松沼)





■ カワムツ KAUM-I. 10736, オス, 体長 145.8 mm 薩摩川内市



■ カワムツ KAUM-I. 31420, メス, 体長 87.7 mm 鹿児島市 松元ダム湖



■ カワムツ KAUM-I. 28026, 体長 69.0 mm 鹿児島市 松元ダム湖



■ カワムツ KAUM-I. 3317, 体長 35.5 mm 鹿児島市 五位野川

特徴 体はやや長く、眼が大きい。体に1本の黒色の帯がある。背鰭は赤みがかり、そのほかの鰭は黄色がかかる。オスはメスよりも長く、大きな臀鰭をもつ。

分布と生態 川の上流から中流にかけて、流れがおだやかなところにすむ。繁殖期（6-7月）のオスは、体が赤みがかり、鰭の黄色みが強くなる。また、頭に追星とよばれる白色のイボのような突起ができる。鹿児島市では甲突川、新川、永田川、障子川、五位野川、松元ダム湖など、多くの川や湖でふつうにみられる。

メモ オイカワとよく似るが、カワムツは体に1本の太い帯をもつことで見分けられる。（松沼）



タカハヤ 川

Phoxinus oxycephalus jouyi



■ タカハヤ KAUM-I. 10564, 体長 71.1 mm 鹿児島市 新川



■ タカハヤ KAUM-I. 28034, 体長 80.0 mm 鹿児島市 松元ダム湖

特徴 体はやや長く、口がややとがる。^{うろこ}鱗はとても小さい。生きているときは体が粘液でおおわれ、ぬるぬるする。体は茶色で腹は黄土色。

分布と生態 カワムツやオイカワとくらべて、川の上流^{じょうりゅう}でよくみられ、流れがおだやかなところにすむ。^{ざっしよくせい}雑食性でなんでも食べる。鹿児島市では、稲荷川^{いなり}、甲突川^{こうつき}、新川^{しん}、永田川^{ながた}の上流^{じょうりゅう}、松元ダム湖^{まつもとこ}に流れこむ川でみられる。

メ 小さいので食用にはされないが、^{かわい}可愛い川魚。鹿児島県の九州地方の川では、上流^{じょうりゅう}ではタカハヤ、上流から中流^{じょうりゅう}にかけてオイカワ、中流^{ちゅうりゅう}から下流^{かりゅう}にかけてカワムツと、場所によって、ゆるやかな住み分け^すがされているようだ。(松沼)





■ カマツカ KAUM-I. 6285, 体長 145.9 mm 鹿屋市 肝属川



■ カマツカ KAUM-I. 25236, 体長 129.6 mm 鹿児島市 甲突川



■ カマツカ KAUM-I. 2829, 体長 99.6 mm 川部町 万之瀬川



■ カマツカ KAUM-I. 7337, 体長 59.9 mm 霧島市 天降川

特徴 体は長い。口は下につき、2本のヒゲがある。口のまわりにイボ状の突起がたくさんある。体は茶色。腹は白色で、黒点がたくさんある。背鰭、腹鰭、尾鰭にも黒点がある。

分布と生態 川の上流から中流でみられ、砂底にもぐって小さな虫などを食べる。産卵期は5-6月。鹿児島市では、甲突川のきれいな砂底でみられる。

メモ 砂底で下流側に網をおき、上流側から足で砂をほりおこすように網へ追い立てると採れることがある。ふだんは、砂にもぐっているのど、どこにいるか見つけづらい。

砂底にもぐる生活をするため、きれいな砂地のある川でないとすめない。意外とおいしい魚。(松沼)



タイリクバラタナゴ 川外

Rhodeus ocellatus ocellatus

■ タイリクバラタナゴ KAUM-I. 1693, オス, 体長 49.0 mm 薩摩川内市 川内川



■ タイリクバラタナゴ KAUM-I. 4936, メス, 体長 50.0 mm 出水市 江内川



■ タイリクバラタナゴ KAUM-I. 34013, 体長 32.1 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体は丸く、縦に平べったい。背鰭と臀鰭は同じ大きさ。体は銀色。オスは体の横に1本の光沢のある細い青色の帯をもつ。メスは背中が茶色っぽく、背鰭の前のほうに黒色の斑紋がひとつある。

分布と生態 平野の浅い池や沼、流れのゆるやかな川や用水路でみられる。鹿児島市内では、永田川でみられ、流れがおだやかな中流の水草がはえた浅いところでよくみられる。

メモ 要注意外来生物に指定されている。もともとすんでいたところは、アジア大陸と台湾。日本へは、1940年代にアジア大陸からその他の淡水魚にまざってもちこまれた。日本に元からいるタナゴ類との交雑などが問題になっている。飼っているタナゴ類は、川に逃がさないようにしよう。(松沼)





■ オイカワ KAUM-I. 6198, オス, 体長 104.5 mm 鹿屋市 高須川



■ オイカワ KAUM-I. 31547, 体長 79.7 mm 鹿児島市 永田川



■ オイカワ KAUM-I. 1062, 体長 26.2 mm 種子島

特徴 体は長い。臀^{しりびれ}鰭はとても大きい。銀色で背中^{はんもん}は黒みがかかる。背^{せびれ}鰭に 3-6 個の小さな黒色の斑紋がある。

分布と生態 川の流れがおだやかなところにすむ。短^{みじか}い川では、カワムツとオイカワがいっしょにすむとき、オイカワはカワムツよりも上^{じょうりゅう}流^{はんしよくき}でみられることが多い。繁殖期（5-8 月）のオスは、体が赤^なみ^がかり、鰭が黄色^{こうつき}っぽくなる。鹿児島市では永田川と甲突川^{ちゅうりゅう}の中流^なから上流^{じょうりゅう}でみられる。

メモ オイカワとカワムツは、まとめて“ハヤ”とよばれる。鹿児島^{だいひょうてき}島の川で、よくみられる代表的な魚。（松沼）



ヤマトシマドジョウ 川

Cobitis matsubarae



■ ヤマトシマドジョウ KAUM-I. 4872, 体長 85.9 mm 出水市 高尾野川



■ ヤマトシマドジョウ KAUM-I. 1816, 体長 69.3 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体は細長い。口は下につき、3対のヒゲがある。体は透明感のある白色で、背中ほうすく茶色みがかかる。体に破線になる黒色の縦帯がある。尾鰭に黒色のしま模様がある。

分布と生態 川の中流から下流の砂底にすむ。産卵期は4-5月。鹿児島市では、永田川の支流の水がきれいな砂底でみられる。

メモ ドジョウとよく似ているが、ヤマトシマドジョウは黒色の特徴的な模様をもつことで、目立った模様のないドジョウと見分けられる。カマツカと同じように砂底にもぐって生活する。鹿児島県では、ヤマトシマドジョウがすむ川は限られており、鹿児島市内では永田川でしかみられない。(松沼)





ドジョウ KAUM-I. 6374, 体長 80.4 mm 曾於市 菱田川



ドジョウ KAUM-I. 31543, 体長 72.4 mm 鹿児島市 永田川



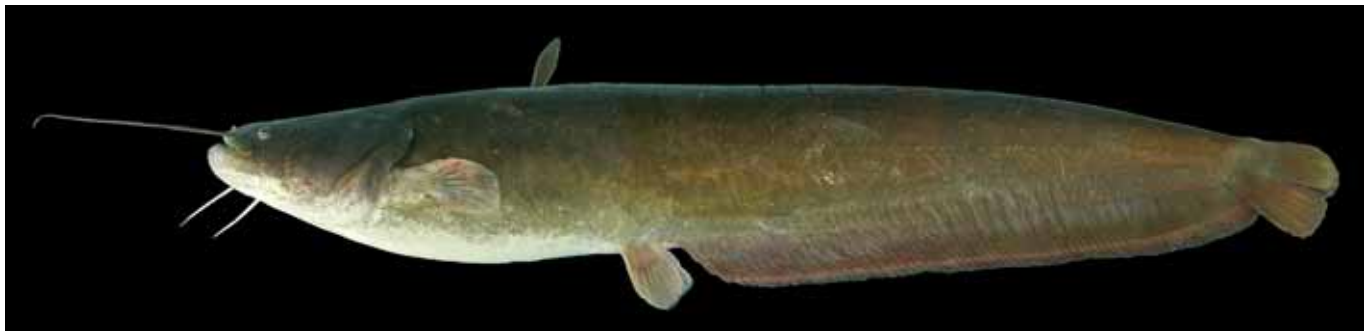
ドジョウ KAUM-I. 46648, 体長 52.5 mm 種子島

特徴 体は細長い。口は下につき、5対のヒゲがある。体は茶色で、黒色のまだら模様がある。

分布と生態 平野の池や沼、田んぼ、流れのない川や用水路でみられる。ふだんは泥や砂にもぐっていることが多い。鹿児島市では、甲突川、新川、永田川でみられる。

メモ ヤマトシマドジョウが川の砂地でみられるのに対して、ドジョウは田んぼや、流れがおだやかな川や水路の泥底で多くみられる。田んぼでふつうにみられる魚だが、最近では環境の悪化などにより数が減っている。食用になり、蒲焼や鍋（柳川鍋）にしておいしい。（松沼）





■ ナマズ KAUM-I. 5052, 体長 401.6 mm 菱刈町 川内川



■ ナマズ KAUM-I. 56886, 体長 213.7 mm 鹿児島市 永田川



■ ナマズ KAUM-I. 21570, 体長 57.6 mm 鹿児島市 甲突川

特徴 体は長い。背^せ鰭は小さく、臀^{しり}鰭は長い。口に2対の長いヒゲをもつ。体は黒みの強い茶色で、腹は白い。

分布と生態 池や沼、川の流れがおだやかなところにすむ。鹿児島県では、田んぼの間を流れる川の水草がしげったところでよくみられる。肉食性で魚やカエルを食べる。鹿児島市では、甲^{こう}突^つ川、脇^わ田^た川、永^{えい}田^{でん}川でみられる。

メモ 産卵期^{さんらんき}の後には、田んぼや川で幼魚^{ようぎょ}（こども）がみられる。ここに掲載された幼魚^{けいさい}（一番下の写真^{しやしん}）は、甲突川^{こうつき}で7月に採集された。最近では、ナマズがすめるような、田んぼが減っており、ナマズの数も減っている。鹿児島市は、町なかであるにもかかわらずナマズのいる川が多くある。大切にしていこう。（松沼）





■ ゴンズイ KAUM-I. 81908, 体長 208.4 mm 高知県



■ ゴンズイ KAUM-I. 29013, 体長 156.8 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ ゴンズイ KAUM-I. 75620, 体長 48.3 mm 長崎県

特徴 体は長い。背^せ鰭^{びれ}と胸^{むな}鰭^{びれ}に、それぞれ1本の棘^{とげ}をもつ。口に4対の長いヒゲをもつ。体は黒色から茶色で、2本の白色の細い縦帯をもつ。

分布と生態 水深の浅い岩場^{も ぼ}や藻場^{しゅうせい}でみられる。とくに子どもは、群れる習性^むがあり、ゴンズイ玉^{だま}とよばれる。産卵期^{さんらんき}は6-8月。本州中部から九州の沿岸^{えんがん}でみられる。鹿児島市^{はかまごし}で、は桜島^{いなり}の袴腰海岸^{かこう}や、稲荷川^{こうつき}の河口^{しん}近くの海岸^{ながた}、甲突川^{かこう}、新川^{かこう}、永田川の河口^{いた}などいたるところでみられる。

メモ 鰭^{ひれ}の棘^{とげ}に毒^{どく}をもつので、注意^さしよう。刺^さされるとしばらく痛む。もし刺^さされたら、40℃くらいのお湯^ゆに刺^さされたところをつけておくと、痛み^{いた}がやわらぐ。(松沼)





■ アユ KAUM-I. 31418, 体長 114.7 mm 鹿児島市 永田川



■ アユ KAUM-I. 6205, 体長 119.5 mm 垂水市 本城川

特徴 体は長く、^{うろこ}鱗が細かい。背^せ鰭^{びれ}の後ろに脂^{あぶら}鰭^{びれ}をもつ（小さな^{ひれ}鰭）。
体は銀色で背中は茶色。鰭は黄色みがる。

分布と生態 川の上流や中流でみられる。アユは、おもに石についた^{そうるい}藻類を食べる。ほとんどのアユは1年で一生を終える。産卵期は秋で、下流で産卵したあと、親のアユは死ぬ。子どもは、卵からかえると海にくだり、冬の間は浅い海ですぐす。成長して春になると川にもどってくる。鹿児島市では、^{ごうつき}甲突川、^{わきた}脇田川、^{ながた}永田川の中流から^{かりゅう}下流でみられる。

メモ ^も藻を食べるからなのか、キュウリや竹の^{かお}香りがする。とてもおいしい魚で、塩焼きなどにして食べる。（松沼）





■ タウナギ KAUM-I. 55831, 全長 59.6 mm 鹿児島市 甲突川



■ タウナギ KAUM-I. 1095, 全長 428.0 mm 西俣町 神之川

特徴 体は細長く、ウナギ型。鱗がなく、粘液でおおわれる。眼は小さい。胸鰭と腹鰭がない。鰓孔はひとつで腹にある。全身が茶色で、黒っぽいまだら模様がある。

分布と生態 田んぼや池、田んぼとつながる水路や川でみられる。夜行性で昼間は泥にもぐっている。魚だが、空気を口から吸って呼吸する。田んぼなどに巣穴をつくる。オスは、泡でできた巣をつくり、その中で卵を育てる。鹿児島市では、甲突川の下流でとれた。

メモ 見た目は奇妙だが、中国や台湾、東南アジアではよく食べられる。ぶつ切りにして、スープや炒め物にされる。こりこりしておいしい。(松沼)



ガンテンイシヨウジ 川

Hippichthys (Parasyngnathus) penicillus



■ ガンテンイシヨウジ KAUM-I. 8829, 全長 107.7 mm 鹿児島市 永田川



■ ガンテンイシヨウジ KAUM-I. 8830, 全長 108.4 mm 鹿児島市 永田川



■ ガンテンイシヨウジ KAUM-I. 6240, 全長 132.1 mm 南大隅町 雄川

特徴 体は細長く、^{ふし}節がある。 ^{しりびれ}臀鰭はとても小さい。 ^{はらびれ}腹鰭はない。 体はうすい茶色で腹は黄色みがかかり、小さな白点がたくさんある。

分布と生態 川の下流や河口など、川と海の水がまじるところにすむ。 ^{りゅうぼく}流木など物陰が多いところを好む。 細長い口で、小さな動物を吸い込むようにして食べる。 鹿児島市では、^{こうつき}甲突川と^{ながた}永田川の下流、^{あたご}愛宕川の河口でとれた。

メモ ヨウジウオ類は、海にすむ^{るい}タツノオトシゴと同じ仲間だ。 長い^お尾をくるくると丸めたのがタツノオトシゴ、と想像すると分かりやすい。 ヨウジウオ類は、枝のように見えるので、慎重に探そう。 体が細いので、^{あみめ}網目から抜けて逃げやすいので、つかまえたら気を付けよう。(松沼)





■ テングヨウジ KAUM-I. 6065, メス, 体長 139.9 mm 鹿児島市 永田川



■ テングヨウジ KAUM-I. 32668, オス, 体長 154.2 mm 鹿児島市 甲突川



■ テングヨウジ KAUM-I. 7206, 体長 115.6 mm 奄美大島

特徴 体は細長く、^{ふし}節がある。^{しりびれ}臀鰭はとても小さい。^{はらびれ}腹鰭はない。体は茶色で、頭に眼をとる黒色の細い帯がある。オスは腹の横に1本の赤色の帯がある。

分布と生態 川の下流や河口など、川と海の水がまじるところで多くみられる。細長い口で、小さな動物を^す吸い込むようにして食べる。鹿児島市では甲突川と永田川の下流でとれた。

メモ とても長い口が、テングの鼻にみえるので、テングヨウジと名前がつけられた。正確には、長い部分は^{ふん}吻とよばれ、小さい口が^{はな}吻の先についている。ヨウジウオの仲間は、^{なま}鱗がなく、よく見ると、体に竹のような^{ふし}節がある。泳ぐのは苦手だが、水草や^{りゅうぼく}流木などの近くでじっとしていると、背景にとけこんで見つけるのが難しい。(松沼)



セスジボラ 川 海

Chelon affinis

■ セスジボラ KAUM-I. 1342, 体長 125.2 mm 鹿児島市 永田川



■ セスジボラ KAUM-I. 1339, 体長 132.5 mm 鹿児島市 永田川



■ セスジボラ KAUM-I. 39034, 体長 43.3 mm 種子島

特徴 体は太く長い。背中に1本の筋^{すじ}がある。尾^お尾^{びれ}は大きい。体は銀色で、背中は黒色がかかる。胸^{むな}鰭^{びれ}のつけねに、三日月形^{ちよう}の模様がある。

分布と生態 川では川と海の水がまじるところで多くみられる。浅い海でもみられる。日本では北海道南部^{りゅうきゅうれつとう}から琉球列島^{ぶんぶ}まで分布する。鹿児島市の川では、永田川の下流と愛宕川^{あたご}の河口^{かこう}で採集された。

メモ 名前のとおり、背中に少しもりあがった1本のスジ^{せなか}があり、さわると分かる。鹿児島市内では、ボラよりも少ないようだ。

ボラ^{るい}類は、イカを釣るための生き餌^えとして人気がある。イカを釣る人は、まず餌^{えさ}のボラを釣るそうだ。釣具店でも餌用^{つりぐてん}のボラ^{えさよう}が売られている。(松沼)





■ コボラ KAUM-I. 7354, 体長 88.1 mm 指宿市 湊川



■ コボラ KAUM-I. 39795, 体長 99.4 mm 与論島



■ コボラ KAUM-I. 39033, 体長 28.8 mm 種子島

特徴 体は太く、体高がやや高い。尾^{おびれ}鰭は大きい。体は銀色で、背中^{むなびれ}は黒色がかかる。胸^{むな}鰭のつけねに三日月形の金色^{きんいろ}の模様がある。

分布と生態 川では、河口^{かこう}など川と海の水がまじるところで多くみられる。浅い海でもみられる。群^むれる習性^{しゅうせい}がある。日本では南日本の太平洋沿岸^{えんがん}、大隅諸島^{おおすみしやう}、琉球列島^{りゅうきゅうれつとう}に分布する。鹿児島市の川では、愛宕川^{あたご}の河口^{かこう}でとれた。

メモ ボラやセスジボラと似るが、体が太短いのが特徴。九州でとれるコボラはいずれも子どもで、大きな成魚^{せいぎょ}はあまりとれない。

ボラと比べて小さいので、あまり食用にならない。ボラとよく似るが、コボラには胸^{むな}鰭のつけねに青色^{せいしょ}の模様がないことで見分けられる。(松沼)





ボラ KAUM-I. 38614, 体長 384.1 mm 鹿児島湾



ボラ KAUM-I. 8412, 体長 333.3 mm 鹿児島市 鈴川



ボラ KAUM-I. 885, 体長 129.0 mm 鹿児島市 永田川



ボラ KAUM-I. 39047, 体長 69.0 mm 種子島

特徴 体はやや長く、体高はあまり高くない。尾^{おびれ}鰭は大きい。体は銀色で、背中^{むなびれ}は黒色がかかる。胸^{こうたく}鰭のつけねに光沢のある青色の小さな斑紋^{はんもん}がある。

分布と生態 川では、河^{かこう}口など川と海の水がまじるところで多くみられる。浅い海でもみられる。ボラの幼魚^{ようぎょ}（子ども）は河^{かこう}口や下流^{かりゅう}で群^{むれ}をつくっているのがよくみられる。成長すると海へ生活の場を移す。大きなボラは定置網^{ていちあみ}でとれることもある。日本では北海道から琉球列島^{りゅうきゅうれいとう}まで広く分布^{ぶんぷ}する。鹿児島市の川では、稲荷川^{いなり}、甲突川^{こうつき}、永田川^{ながた}、愛宕川^{あたご}、鈴川^{すず}と多くの川でみられる。

メモ ボラの仲間は眼^{なまめ}のまわりに特別な筋肉^{とくべつ きんにく}がついており、とても眼^めが良い。そのため、手網^{てあみ}でとるのはむずかしい。おいしい魚。（松沼）





■ カダヤシ KAUM-I. 6910, オス, 体長 29.0 mm 鹿児島市



■ カダヤシ KAUM-I. 6911, メス, 体長 39.0 mm 鹿児島市



■ カダヤシ KAUM-I. 1259, メス, 体長 42.4 mm 鹿児島市

特徴 体はやや長い。背^{せびれ}鰭はひとつで、臀^{しりびれ}鰭とほぼ同じ大きさ。尾^{おびれ}鰭はまるい。メスはオスよりも体高が高く、体長も大きい。オスの臀^{しりびれ}鰭は細長い。体は黄土色で腹は白色。眼の下に黒色の帯が1本ある。

分布と生態 池や沼、水田、川や水路でみられる。卵胎生で繁殖する。メスの胎内^{たいない}で卵がかえり、子どもが産まれる。鹿児島市では、町中の水路と永田川から記録されている。

メモ 特定外来生物^{とくていがいらいせいぶつ}に指定されており、飼育や生きたままの持ち運びが法律で禁止^{きんし}されている。原産地^{げんさんち}（もともとすんでいたところ）はアメリカ大陸で、マラリアという病気を広める蚊の幼虫（ボウフラ）をカダヤシに食べさせて駆除^{くじょ}することを目的に、日本にもちこまれた。

メダカと似るが、眼の下に黒色の帯があること（メダカにはない）、背^{せびれ}鰭と臀^{しりびれ}鰭がほぼ同じ大きさであること（メダカでは臀^{しりびれ}鰭のほうが長く大きい）で見分けられる。（松沼）



ミナミメダカ 川

Oryzias latipes



■ ミナミメダカ KAUM-I. 46645, オス, 体長 27.2 mm 種子島



■ ミナミメダカ KAUM-I. 46646, メス, 体長 29.8 mm 種子島



■ ミナミメダカ KAUM-I. 6398, オス, 体長 24.9 mm 大崎町 田原川



■ ミナミメダカ KAUM-I. 1208, メス, 体長 27.6 mm 鹿児島市 永田川



■ ミナミメダカ (色素異常) KAUM-I. 7159, 体長 20.0 mm, 鹿児島市 永田川

特徴 体はやや長い。背^{せびれ}鰭はひとつで、臀^{しりびれ}鰭よりも小さい。尾^{おびれ}鰭は台形。オスはメスと比べて、背^{せびれ}鰭が大きく切れ込みが深い。体は黄土色で腹は白色。鰭は黄色。地^ち域^{いき}によって色^{こと}が異なる。

分布と生態 平野^{へいや}の川、田んぼ、池や沼にすむ。メスは水草に卵を産みつける。小さな動物や、水面^うに浮かぶ小さな虫などを食べる。鹿児島市では、甲突川^{こうつき}、新川^{しん}、永田川^{ながた}の中流から下流^{ちゅうりゅう}の流れがおだやか^{かりゅう}なところでみられる。

メモ 日本のメダカは1種と考えられていたが、最近の研究で2種に分けられ名前もかわった。ミナミメダカは南日本^{ぶんぶ}に分布し、本州中部^{りゅうきゅうれつどう}から琉球列島^{りゅうきゅうれつどう}までみられる。一方、キタノメダカは、本州北部^{ぶんぶ}に分布する。鹿児島県には、遺^{いでんてき}伝^{てん}的な特徴^{とくちょう}が異なる薩摩^{さつまた}型^{がた}、大隅^{おおすみ}型^{がた}、琉球^{りゅうきゅう}型^{がた}の3つの個体群^{こたいぐん}がいる。

環境^{かんきょう}の変化により、全国的に数^{かず}が減^へっており、絶滅^{ぜつめつ}が危惧^{きぐ}されている。(松沼)





■ サヨリ KAUM-I. 38008, 体長 30.4 mm 鹿児島市 稲荷川



■ サヨリ KAUM-I. 38009, 体長 23.3 mm 鹿児島市 稲荷川



■ サヨリ KAUM-I. 21156, 体長 138.2 mm 鹿児島湾



■ サヨリ KAUM-I. 5423, 体長 172.5 mm 鹿児島湾

特徴 体は細長い。下顎^{したあご}が長く突き出て、とがる。体は銀白色で背中^{うろこ}は緑色がかった灰色。下顎^{したあご}の先は赤色。鱗は、はがれやすい。大きいもので 40 cm くらいになる。

分布と生態 岸に近い浅い海でみられる。子どもは、河口^{かこう}でもみられる。日本では、北海道から九州^{えんがん}の沿岸でみられる。鹿児島市の川では、5 月に稲荷川の河口^{いなり かこう}で体長 3 cm ほどの子どもが群^むれているのが観察^{かんさつ}された（上 2 枚の写真）。

メモ ^{じょうひん}上品な白身で、塩焼きなどにして食べられるおいしい魚。
^{ていちあみ}定置網でよくとれる。（松沼）





■ カサゴ KAUM-I. 1007, 体長 90.0 mm 南さつま市 笠沙



■ カサゴ KAUM-I. 27643, 体長 106.5 mm 鹿児島湾

特徴 体は太く、頭が大きい。頭に棘^{とげ}がたくさんある。体は茶色から赤色までさまざま、すんでいる場所によってかわる。30 cm くらいになる。

分布と生態 日本中でみられる。ふつう浅い海にすむ。あまり泳ぎまわらず、底についていることが多い。肉食性^{にくしよくせい}で、小さな魚などを食べる。卵でなく小さな子どもを産む（卵胎生^{らんたいせい}という）。鹿児島県では九州地方と種子島・屋久島^{たねがしま やくしま}地方でみられ、漁港^{ぎょこう}などでよく釣れる。稲荷川^{いなり}の横の海岸^{さいしゅう}で採集された。

メモ 鹿児島県では「アラカブ」とよばれ、親しま^{した}れる。簡単に釣れ、おいしい。頭や鰓蓋^{えらふた}にするどい棘^{とげ}があるので、つかまえたら気を付けよう。（松沼）





■ サツマカサゴ KAUM-I. 22510, 体長 150.7 mm 鹿児島湾



■ サツマカサゴ KAUM-I. 19083, 体長 60.6 mm 稲荷川河口横の海岸

特徴 体は太く、頭が大きい。頭に棘がたくさんある。大きい胸鰭の裏側には黄色、オレンジ、黒色の鮮やかな模様がある。体は茶色から赤色までさまざまで、すんでいる場所によってかわる。

分布と生態 日本では千葉県以南の太平洋岸と琉球列島に分布する。河口や沿岸の岩場の間にある砂や泥の海底に好んですむ。あまり泳ぎまわらず、海底でじっとしていることが多い。肉食性で、小さな魚やエビ・カニなどを食べる。威嚇時に胸鰭を広げて裏側の鮮やかな模様を敵にみせる。ゼリー状の透明な塊につつまれた卵を産む。稲荷川の横の海岸で採集された。

メモ サツマカサゴの「サツマ」は鹿児島のこと。おいしいが、漁獲量は少ない。背鰭や臀鰭の棘に毒があるので、つかまえたら要注意。(本村)





■ トカゲゴチ KAUM-I. 29002, 体長 200.7 mm 鹿児島市稲荷川河口横の海岸



■ トカゲゴチ KAUM-I. 352, 体長 240.7 mm 南さつま市 笠沙

特徴 体は細長く、平たい。頭も平たく、たくさんの棘^{とげ}がある。背^せ鰭^{びれ}は2つ。茶色で、腹は白っぽい。胸^{むな}鰭^{びれ}と尾^お鰭^{びれ}に黒点がたくさんある。20 cm ほどになる。

分布と生態 浅い海の砂地にすむ。エビやカニ^{るい}類、小さな魚を食べる。鹿児島県では九州地方の海で、ごくふつうにみられる。稲荷川横の海岸^{いなり}で採集された。

メモ 鹿児島県では、定置網や底曳き網などで漁獲され、食用になる。コチ^{るい}類は、オスからメスへ性転換^{せいてんかん}することが知られている。(福井)





■ マゴチ KAUM-I. 6693, 体長 335.5 mm いちき串木野市



■ マゴチ KAUM-I. 55368, 体長 266.1 mm 鹿児島市 甲突川



■ マゴチ KAUM-I. 30680, 体長 206.3 mm 宮崎県

特徴 体は細長く、平たい。背^{せびれ}鰭は2つ。体は茶色で、腹は白っぽい。尾^{おびれ}鰭は白色で、黒い模様がある。50 cm ほどになる。

分布と生態 浅い海の砂地にすむ。小さなものは河^{かこう}口でもよくみられる。動物食で、エビやカ^{るい}ニ類、魚を食べる。鹿児島県では九州地方と種子島^{たねがしま}の海でみられる。種子島よりも南の地方には分布しない。鹿児島市の川では、甲突川^{こうつき}の河^{かこう}口で釣^さりで採集された。

メモ 釣り魚として人気がある。おいしい白身魚。眼^めの後ろに鋭い棘^{すど}があるので、つかむ時には注^{ちゅう}意しよう。(福井)





スズキ KAUM-I. 55974, 体長 313.9 mm 鹿児島市 甲突川

特徴 体はやや細身。口はとがる。背^{せびれ}鰭は2つある。体は銀色で背中^{せなか}は黒色^{くろいろ}がかかる。

分布と生態 岸に近い浅い海でみられる。若いスズキは川の河口^{かこう}や下流^{かりゅう}でみられることもある。80 cm 近くまで成長する。大きなものは海^{うみ}で釣り^{てい}や定置網^{ていしきあみ}でとれる。日本では北海道から九州^{えんがん}の沿岸^{えんがん}でみられる。鹿児島市の川では、甲突川^{こうつき}と愛宕川^{あたご}の下流^{かりゅう}で記録^{きろく}された。

メモ おいしい魚。ひきが強いので釣り魚^しとしても親しまれる。(松沼)





■ ヒラスズキ KAUM-I. 58161, 体長 288.4 mm 鹿児島市 永田川



■ ヒラスズキ KAUM-I. 39128, 体長 97.6 mm 種子島

特徴 体はやや太い。口はとがる。^{せびれ}背鰭は2つある。体は銀色で背中
中は黒色がかかる。

分布と生態 岸に近い浅い海にすみ、波の荒い^{あら}ところが多くみられ
る。若いヒラスズキは川と海の水がまじる河口^{かこう}や下流^{かりゅう}、完全に淡水
のところでもみられることもある。80 cm 近くまで成長する。南日本の
沿岸^{えんがん}でみられる。鹿児島市の川では^{ながた}永田川の河口^{かこう}で記録された。^{きらく}

メモ おいしい魚で、釣り魚としても人気がある。スズキとよく似
ているが、ヒラスズキはスズキよりも体が太く、とくに^{びへい}尾柄（体のう
ち^{しりびれ}臀鰭^{おびれ}と^{とくちよう}尾鰭^{びへい}の間の部分）が太く短いことが特徴（スズキでは細く長
い）。（松沼）





■ ブルーギル KAUM-I. 19269, 体長 188.9 mm 鹿児島市 松元ダム湖



■ ブルーギル KAUM-I. 56883, 体長 121.7 mm 鹿児島市 永田川

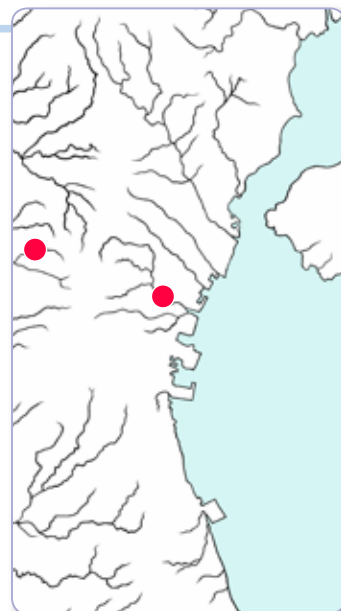


■ ブルーギル KAUM-I. 28028, 体長 81.3 mm 鹿児島市 松元ダム湖

特徴 体は横からみて丸い。鱗の棘は強い。尾鰭はハート形。体は黒みがかった緑色で、鰓蓋に黒色の模様が一つある。

分布と生態 ダム湖や池、流れのおだやかな川でみられ、なんでも食べる。20 cm 近くまで成長する。成長するにつれて体の高さが高くなり、横からみて丸くなっていく。原産地(もともとすんでいたところ)は中央アメリカで、日本にもちこまれたものが全国でみられる。鹿児島市内では永田川と松元ダム湖でたくさんみられる。松元ダム湖から流れ出る永吉川の上流でも記録されている。

メモ 特定外来生物に指定されており、飼うことや、生きたまま持ち運ぶことが法律で禁止されている。ブルーギルがとれても、生かしたまま家に持ち帰ったり、ほかの川に放すのはやめよう。(松沼)





オオクチバス KAUM-I. 39334, 体長 398.0 mm 鹿児島市 松元ダム湖



オオクチバス KAUM-I. 39333, 体長 183.4 mm 鹿児島市 松元ダム湖

特徴 体はやや長く太い。鱗の棘は強い。尾鰭はハート形。口は大きく、上あごの後縁は眼をこえる。頭と体は暗い緑色で、腹は白っぽい。

分布と生態 湖や池、流れのゆるやかな川でみられ、なんでも食べる。最大で体長 50 cm をこえる。原産地は中央アメリカで、日本各地でみられる。鹿児島市内では松元ダム湖から記録されている。

メモ 法律で特定外来生物に指定されている。飼ったり、持ち運んだりするのはやめよう。釣り魚として利用するために日本にもちこまれ、全国各地の湖や池に放流された。しかし、もともと日本にすんでいた生きものに悪い影響を与えることがわかったため、現在では駆除がすすめられている。人間の都合で悪者あつかいされているが、おいしく食べられる魚。(松沼)



クロイシモチ 海

Apogonichthyoides niger



■ クロイシモチ KAUM-I. 29009, 体長 63.2 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ クロイシモチ KAUM-I. 47242, 体長 57.9 mm 鹿児島湾



■ クロイシモチ KAUM-I. 23754, 体長 51.2 mm 鹿児島湾

特徴 体はやや平たく、高い。体全体が黒っぽく、2本の太い横縞をもつ。尾鰭は丸くて透明。

分布と生態 漁港や内湾などおだやかで浅い海でみられ、砂地や泥地を好む。鹿児島県では、浅い海でふつうにみられる。稲荷川横の海岸で採集された。

メモ 単独で生活することが多いが、夏の繁殖期になると結婚相手を求めて活発になる。クロイシモチなどのテンジクダイの仲間は、オスが口の中で子育てをする（口内保育）をすることが知られている。小さいので食用にはならない。（福井）





ギンガメアジ KAUM-I. 50174, 体長 75.2 mm 種子島



ギンガメアジ KAUM-I. 39815, 体長 93.7 mm 与論島



ギンガメアジ KAUM-I. 611, 体長 203.0 mm 南さつま市笠沙

特徴 体は高い。幼魚は卵型だが、成長するとやや細長くなる。体は銀色で、鰓蓋の上のほうに小さな黒い点を持つ。

分布と生態 浅い海にすみ、河口にもよくあらわれる。鹿児島県では、浅い海で、ふつうにみられる魚。愛宕川の河口で採集された。

メモ 市場では、ほかのギンガメアジ類とあわせて「メッキ」と呼ばれる。定置網や釣りでとれる。白身でおいしい魚。幼魚の体の色は金色だが、成長するにしたがって銀色に変化する。(福井)



クロホシフエダイ 川海

Lutjanus fulviflamma

■ クロホシフエダイ KAUM-I. 32490, 体長 28.3 mm 鹿児島市 永田川



■ クロホシフエダイ KAUM-I. 32491, 体長 46.4 mm 鹿児島市 永田川



■ クロホシフエダイ KAUM-I. 6895, 体長 94.8 mm 南さつま市 笠沙

特徴 体はやや高く、^{ひれ とげ} 鰭の棘は強い。口は大きく、歯はするどくとがる。頭と体は灰色がかり、体に約4本の黄土色の帯があり、中央に黒い模様がある。^{はらびれ しりびれ} 腹鰭と臀鰭は黄色。子どもは白色で、体の帯が黒色。^{せいぎょ} 成魚よりも背鰭棘と腹鰭がやや長い。

分布と生態 ^{えんがん} 沿岸の岩場やサンゴ礁にすむ。^{しょう} 子どもは、河口でもみられる。ここに掲載した写真の子どもは、^{ながた} 永田川の河口で9月に^{かいこう} 採集された。成長すると30 cmほどになる。西太平洋に^{ぶんぶん} 分布し、国内では南日本の^{たいへいようがん} 太平洋岸でみられる。鹿児島市の川では、^{ながた} 永田川の河口から^{かいこう} 幼魚が記録された。

メ 食用になり、^{ていちあみ} 定置網などでとれる。(松沼)



海川 セダカダイミョウサギ

Gerres akazakii



セダカダイミョウサギ KAUM-I. 1265, 体長 70.8 mm 鹿児島市 稲荷川



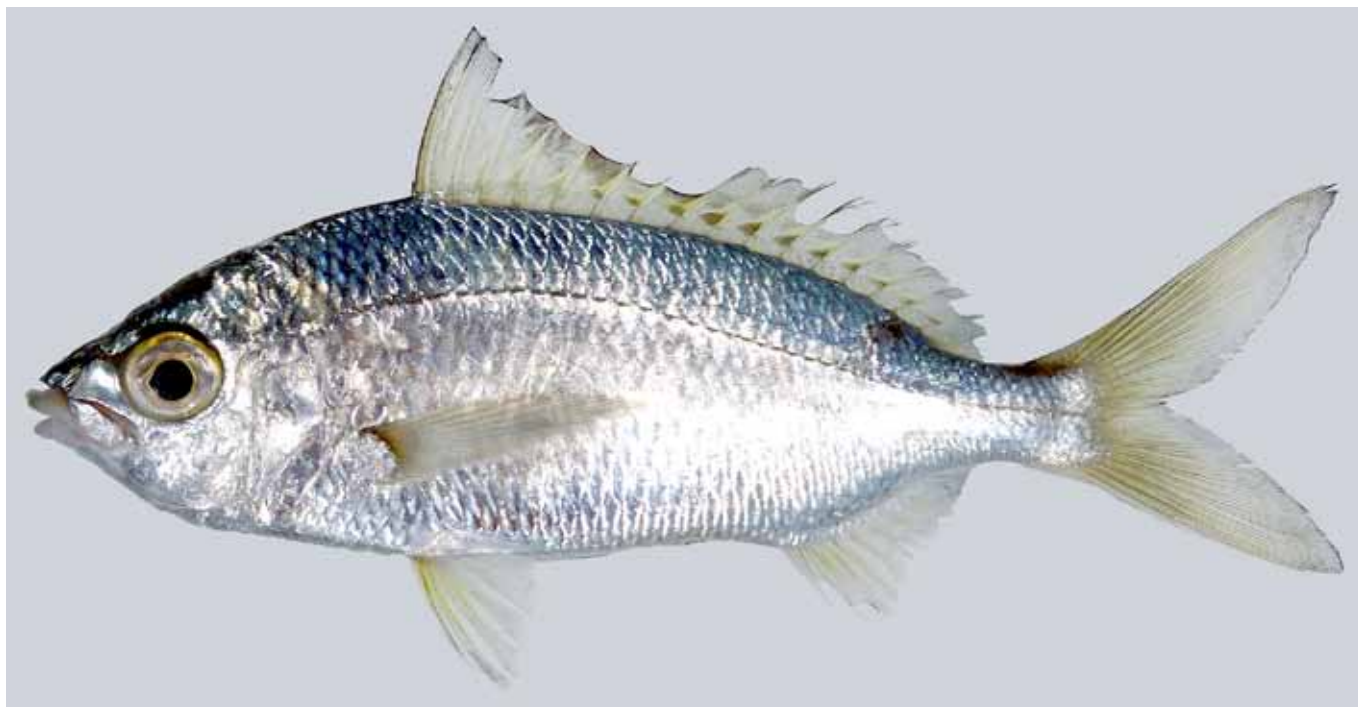
セダカダイミョウサギ KAUM-I. 26550, 体長 136.0 mm 南さつま市 笠沙

特徴 体はやや高い。口は小さくとがる。眼は大きい。体は銀色で、体に不明瞭な暗色の縦縞が多数ある。腹鰭と臀鰭はあざやかな黄色。

分布と生態 沿岸の砂底にすみ、河口でもよくみられる。静岡県よりも南の太平洋岸から種子島まで分布する。夜に休むときや、敵におそわれると砂にもぐってかくれる。鹿児島市の川では、稲荷川と新川の河口で幼魚（子ども）がとれた。

メモ 定置網などでとれる。クロサギとよく似るが、セダカダイミョウサギは、体が高いこと（ずんぐりしている）、体に多数の細い横縞があること、腹鰭と臀鰭が黄色であることから見分けられる。（松沼）





■ クロサギ KAUM-I. 5508, 体長 143.9 mm 鹿児島市 永田川



■ クロサギ KAUM-I. 26626, 体長 178.7 mm 鹿児島湾

特徴 体はそれほど高くない。口は小さくとがる。眼は大きい。頭と体は銀色。

分布と生態 沿岸の砂底にすみ、河口でもよくみられる。南日本の沿岸でみられ、分布の南限は大隅諸島。夜に休むときや、敵におそわれると砂にもぐってかくれる。鹿児島市の川では、稲荷川、永田川、新川、八幡川など多くの川の河口でよくみられる。

メモ 大型のクロサギは定置網などでとれる。河口などでもよく釣れる。鹿児島県では“アメウオ”とよばれスーパーで売られている。(松沼)





キチヌ KAUM-I. 5056, 体長 104.8 mm 鹿児島市 永田川



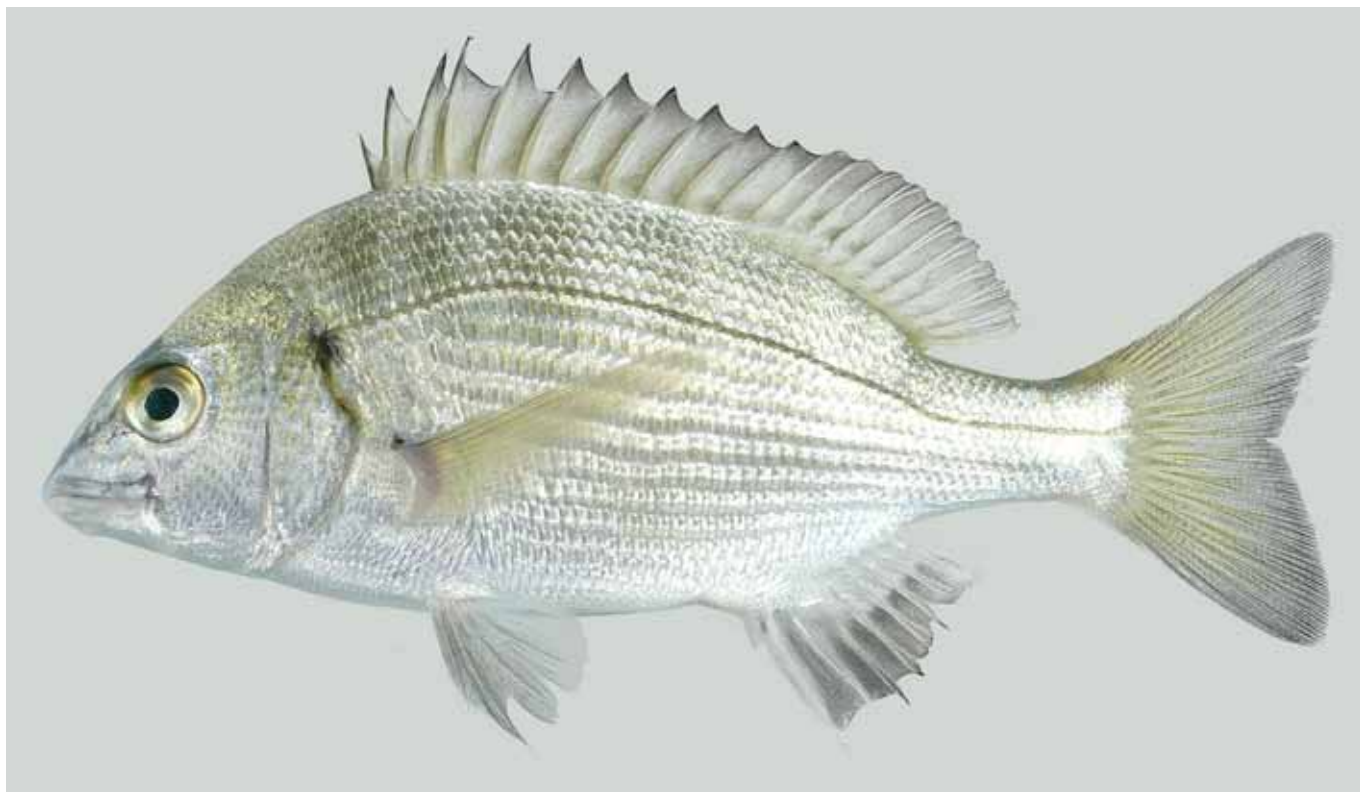
キチヌ KAUM-I. 54594, 体長 315.4 mm 鹿児島湾

特徴 体は高い。鰭の棘は太く強い。体は銀白色で、腹鰭、臀鰭、尾鰭の下のはうは、あざやかな黄色。背鰭は黒みがかかる。

分布と生態 岸に近い、浅い海の砂地や岩場にすみ、河口でもよくみられる。国内では南日本に分布する。雑食性でなんでも食べる。鹿児島市の川では、永田川の河口で採集された。鹿児島湾の沿岸でもみられる。

メモ 大型のキチヌは定置網などでとれる。釣りでもよくとれる。クロダイと似るが、キチヌは、腹鰭、臀鰭、尾鰭の下のはうがあざやかな黄色であることで見分けられる。(松沼)





■ クロダイ KAUM-I. 5016, 体長 90.8 mm 鹿児島市 永田川



■ クロダイ KAUM-I. 33681, 体長 192.2 mm 長島町

特徴 体は高い。鰭の棘は太く強い。幼魚(子ども)の体は銀白色で、大きくなると黒みが強くなる。鰭は黒みがかかる。

分布と生態 岸に近い浅い海の砂地や岩場、藻場にすみ、幼魚(子ども)は河口でもよくみられる。国内では琉球列島をのぞき北海道よりも南の地方に分布する。雑食性でなんでも食べる。鹿児島市の川では、稲荷川と永田川の河口で採集された。鹿児島湾の沿岸でも、よくみられる。

メモ 釣り魚として親しまれる。定置網などでもとれ、食用になる。キチヌよりやや細身。(松沼)





■ シロギス KAUM-I. 5057, 体長 171.4 mm 鹿児島市 永田川



■ シロギス KAUM-I. 30172, 体長 201.4 mm 内之浦湾

特徴 体は細長い。口は小さくよくとがるキツネ顔。背^{せびれ}鰭は2つ。第2背^{しりびれ}鰭と臀^{うろこ}鰭はほぼ同じ長さ。鱗はうすくはがれやすい。体は白色で目立ったもようがない。生きているときは銀^{こうたく}色の光沢がある。

分布と生態 河口^{かこう}や砂浜など沿岸の砂底でよくみられ、危険を感じると砂にもぐることがある。20 cm ほどまで成長する。日本では北海道から九州でみられる。鹿児島市の川では、稲荷^{いなり}川、永田^{ながた}川、愛宕^{あたご}川の河口^{かこう}で採集された。

メモ 食用になり、天ぷらや塩焼きなどでおいしい魚。釣り魚としても人気がある。キスの仲間^{なかま}は、特別な鰾^{とくべつ うきぶくろ}をもち、水の中^{しんどう}の振動を敏感^{びんかん}に感じとることができる。そのため、釣^{むずか}るのが難しく、ふつうキスを釣るときは岸から遠くまで針を投げて釣る。(松沼)



ヨメヒメジ

Upeneus tragula

海



ヨメヒメジ KAUM-I. 22542, 体長 194.9 mm 鹿児島湾



ヨメヒメジ KAUM-I. 1269, 体長 83.9 mm 鹿児島市 稲荷川

特徴 体はやや細長い。口は下につき、^{したあご}下顎に1対の長いヒゲがある。^{ついで}背鰭は2つ。第2背鰭と臀鰭は短い。尾鰭は深くきれこむ。頭と体の背中^{おびれ}は茶色、腹はくすんだ赤色で、体に多数の黒色点がある。尾鰭には縞模様がある。ヒゲは黄色。魚の状態によって体色が薄くなったり、もようが消えたりする。

分布と生態 海の浅いところの砂底でよくみられる。^{かこう}河口でもみられる。ゴカイや小さなエビ・カニ類などを食べる。^{ふんぶ}南日本に広く分布する。鹿児島市の川では、^{いなり}稲荷川と^{あたご}愛宕川の^{かこう}河口でとれた。

メモ ヒメジの仲間は、^{なかま}下顎についたヒゲで味を感じることができる。このヒゲをつかって、^{かいてい}海底にひそむ動物をさがして食べる。(松沼)



外川 ナイルティラピア

Oreochromis niloticus

■ ナイルティラピア KAUM-I. 56884, 体長 109.6 mm 鹿児島市 永田川



■ ナイルティラピア KAUM-I. 56885, 体長 93.3 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体高が高く、体形はタイ型。鱗の棘は強い。背鰭は1つ。体は黒みがかった緑色。背鰭、臀鰭、尾鰭に黒色のしま模様がある。鰓蓋に1個の黒色の斑紋がある。

分布と生態 高い水温を好むが、低水温（10℃ほど）でも生きられる。川の流れがおだやかなところや湖沼にすむ。高い塩分にも強く、河口近くの汽水域（海水がまじるところ）にもすめる。外来種で、原産地はアフリカ大陸。現在では南日本の各地でみられ、鹿児島市では永田川でみられる。鹿児島県では永田川のほかに、指宿市の川や池田湖などの湖沼、島に広く定着している。

メモ 食用になり、おいしい魚。かつては養殖され、“チカダイ”や“イズミダイ”の名前でマダイの代用品として売られていた。現在では要注意外来生物に指定されている。（松沼）



オヤビッチャ 海

Abudefduf vaigiensis



■ オヤビッチャ KAUM-I. 5672, 体長 112.4 mm 種子島



■ オヤビッチャ KAUM-I. 45939, 体長 49.5 mm 与論島



■ オヤビッチャ KAUM-I. 41131, 体長 45.5 mm 与論島

特徴 体は丸い。尾^{おびれ}鰭はとがる。青色で、5本の黒い帯をもつ。背^{せびれ}中と背^{せびれ}鰭は、黄色みがかかる。

分布と生態 鹿児島県の浅い海でふつうにみられるスズメダイ^{るい}類の代表。小さなものは、潮だまりなどで小さな群れをつくる。稲荷川^{いなり}の横にある海岸^{さいしゅう}で採集された。鹿児島湾内では、どこでもよくみられる。

メモ 堤防^{ていぼう}からのサビキ釣りでよく釣れる魚。大きなものは塩焼き^{てんじ}でおいしい。きれいなスズメダイなので、水族館でも展示されている。(福井)





シマイサキ KAUM-I. 10932, 体長 156.3 mm 鹿児島湾



シマイサキ KAUM-I. 6307, 体長 39.2 mm 肝属町 肝属川

特徴 体形はタイ型。口はよくとがる。^{えらぶた}鰓蓋に1本の強い棘^{とげ}がある。^{ひれ}鰭の棘はつよい。体は銀白色で背中^{じゅうたい}は茶色^ながかかる。体に4本の目立つ黒色の細い縦帯^{じゅうたい}がある。

分布と生態 幼魚^{ようぎょ}は河口^{かうこう}や、砂浜^{せいぎよ}でよくみられ、成魚^{せいぎょ}は海^{うみ}でみられる。つかまると鰓^{えらぶた}をグウグウと鳴らしながら、^{とげ}鰓蓋にある棘^{とげ}を^{てき}広げて敵^{てき}を威嚇^{いこく}する。幼魚^{ようぎょ}は砂^{すな}にもぐることがある。南日本^{なんにっぽん}に広く分布^{ぶんぷ}し、鹿児島市^{かごしま}の川^{かわ}では甲突川^{こうつき}でとれた。

メモ 名前に“イサキ”とあるが、イサキ科^{いさき}の仲間^{ななかま}ではなくシマイサキ科^{しまいさき}の魚^{うし}。鰓蓋^{えらぶた}に強い棘^{とげ}をもつのが特徴^{とくちょう}。シマイサキ科^{しまいさき}の魚^{うし}は日本^{にっぽん}から7種^{しちしゆ}が知られているが、鹿児島県^{かごしまけん}の九州沿岸^{きゅうしゅうえんがん}でみられるのは、シマイサキとコトヒキがほとんど。成魚^{せいぎょ}は定置網^{ていぢあみ}などでとれる。(松沼)





コトヒキ KAUM-I. 50269, 体長 31.2 mm 種子島



コトヒキ KAUM-I. 11489, 体長 45.2 mm 屋久島

特徴 体形はタイ型。口は丸みをおびる。鰓蓋に1本の強い棘がある。鰭の棘はつよい。体は銀白色で、3本の黒色の縦帯がある。体の帯はカーブを描く。尾鰭に縞模様がある。

分布と生態 浅い海や河口にすみ、幼魚はとくに河口の砂地でよくみられる。つかまると鰾をグウグウと鳴らす。南日本に広く分布する。鹿児島市の川では、甲突川と永田川の河口近くで採集された。

メモ シマイサキと似るが、コトヒキの体にある帯はカーブを描くことで、帯が直線のシマイサキと見分けられる。定直網や釣りでとれ、食用になる。(松沼)





■ ユゴイ KAUM-I. 25049, 体長 78.4 mm 屋久島



■ ユゴイ KAUM-I. 50264, 体長 32.4 mm 種子島



■ ユゴイ KAUM-I. 34077, 体長 20.0 mm 鹿児島市 甲突川

特徴 体はよこからみて^{だえん}楕円形。^{しりびれ}臀鰭は長い。^{ひれ とげ}鰭の棘は強い。銀白色で、背中^{せびれ}は黒みがかる。^{しりびれ}背鰭と^{おびれ}臀鰭の前方は赤黒い。尾鰭^{ようぎよ}の上下も広く赤黒い。

分布と生態 川の中流^{ちゅうりゅう}から河口^{かこう}にかけてみられる。虫や小さな魚を食べる。南日本^{ぶんぶ}に分布する。鹿児島市の川では、^{こうつき}甲突川^{かりゅう}の下流で1個体の^{ようぎよ}幼魚がとれた。九州の川では稀で、とれても幼魚ばかり。一方で、^{たねがしま}種子島^{やくしま}・屋久島よりも南の地域では、よくみられる川魚のひとつ。

メモ 体に黒色の点がたくさんあるものと、まったくないものが知られる。これはすんでいる場所の違いによるものと考えられている。(松沼)





■ メジナ KAUM-I. 44954, 体長 117.8 mm 種子島



■ メジナ KAUM-I. 29010, 体長 28.0 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸

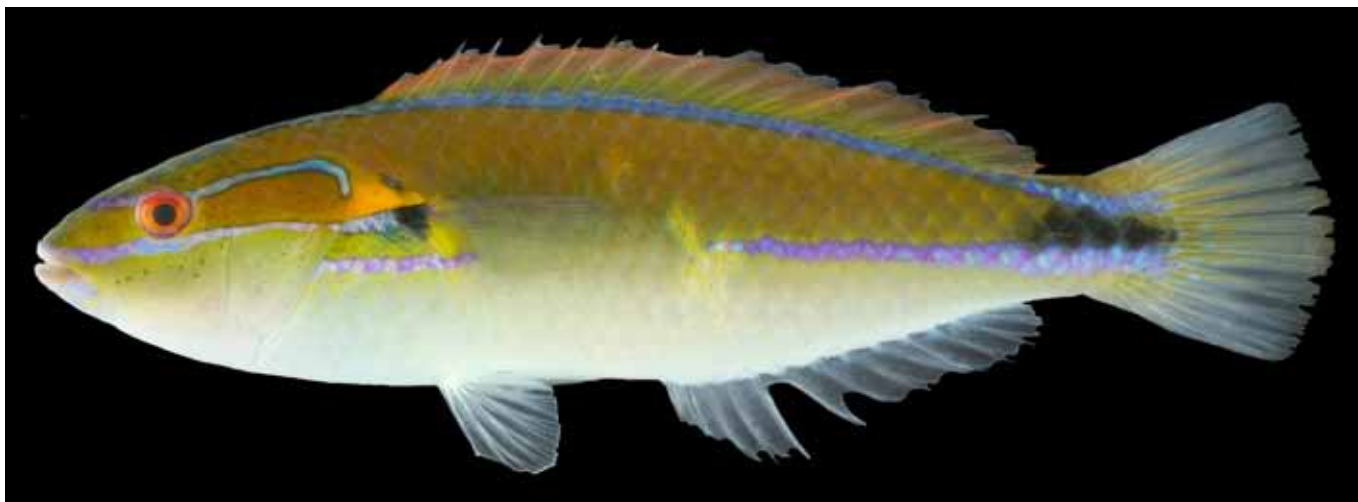
特徴 体は丸みをおびる。尾^{おびれ}鰭のつけねが太い。全身が黒い。

分布と生態 鹿児島県ではどこでもよくみられる。浅い海にすむ。小さなものは、潮^{しお}だまりなどで群^むれる。なんでもよく食^いべる。稲荷川^{いなり}横の海岸^{さいしゅう}で採集された。

メモ クロメジナとよく似ているが、鰓^{えら}蓋^{ふた}の後ろが黒くないことで見分けられる。

釣り魚として人気があり、岩^{ぎょこう}場や漁港で釣れる。定置網などでもとれ、食用になる。1本の歯の先が3つに分かれている。これで岩についた海藻^{かいそう}などをけずりとして食べる。(福井)





■ カミナリベラ KAUM-I. 9063, オス, 体長 90.9 mm 南さつま市登沙



■ カミナリベラ KAUM-I. 20273, メス, 体長 53.6 mm 屋久島



■ カミナリベラ KAUM-I. 9092, メス, 体長 46.7 mm 阿久根市

特徴 幼魚は、背鰭の後ろとおびれのつけねに黒い点をもつ。メスは体に、黒い線をもつ。オスは体が黄緑～黄色で、2本の鮮やかな黄緑色の縦縞をもつ。また、胸鰭のつけねが鮮やかなオレンジ色に染まる。

分布と生態 浅い海にすむ。稲荷川横の海岸でとれた。

メモ ベラ科の魚は、オスとメスで色が異なり、性転換（成長によって性別が変わること）することが知られている。カミナリベラはメスからオスに変化する。よく釣れるが、食用には向かない。

幼魚は水深 1 m くらいの浅い海や潮だまりで観察される。幼魚は、背鰭の後ろとおびれのつけねにそれぞれ 1 つ、小さな黒い点をもつことが特徴。（福井）





■ ヘビギンボ KAUM-I. 29021, 体長 46.9 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ ヘビギンボ KAUM-I. 21643, 体長 41.4 mm 屋久島

特徴 体は細長く、背^{せびれ}鰭を3つもつ。4～5本の白い横^{おうたい}帯がある。オスとメスで体の色が大きく異なり、メスは赤^{せいじゆく}っぽく、成熟したオスは真っ黒。

分布と生態 浅い海にすみ、潮^{しお}だまりなどでふつうにみられる。稲荷川^{いなり}横^{さいしゅう}の海岸で採集された。

メモ 普段は岩の上で鰭^{ふだん}を広げてじっとしているが、危険^{きけん}が迫ると素早く物陰^{ものかげ}に身をかくす。岩の上をとびはねるように泳ぐ。オスは、成長すると背^{せびれ}鰭の前のほう^のが伸び、体の色が黒くなる。（福井）





■ ナベカ KAUM-I. 47282, 体長 61.5 mm 鹿児島湾



■ ナベカ KAUM-I. 47283, 体長 51.7 mm 鹿児島湾

特徴 体はやや細長い。^{うろこ}鱗がない。頭から体の中央まで茶色のしま模様がある。体の後ろには、たくさんの白と黒の点がある。

分布と生態 浅い海^{かいそう}の海藻のはえるところでみられる。雑食で、なんでもよく食べる。稲荷川^{いなり}横の海岸^{さいしゅう}で採集された。

メモ ^{むなびれ}胸鰭を広げて、岩の上にとどまることが多い。大きな目で近づいてくる生き物をじっと見ている。口が小さいので、釣^{あみ}りでの採集はむずかしいため、網^{さいしゅう}ですくって採集するとよい。(福井)



ニジギンポ 海

Petroscirtes breviceps

■ ニジギンポ KAUM-I. 26271, 体長 83.5 mm 南さつま市 笠沙



■ ニジギンポ KAUM-I. 29004, 体長 83.1 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸

特徴 体は細長い。口はおちょぼ口で、強い犬歯^{けんし}をもつ。体は茶色で、しま模様^{ちようおびれ}がある。尾鰭^{おびれ}は上下がのびる。

分布と生態 長い鰭^{ひれ}をつかって水中をのよるのよると泳ぐ。岩穴や貝殻^{かいがら}の中に卵を産む。空き缶^{かいそう}の中に産むこともある。浅い海^{かいそう}の海藻のはえるところにすむ。流れ藻^{ながも}につくこともある。稲荷川横^{いなり}の海岸で採集^{さいしゅう}された。

メモ つかえまると、するどい犬歯^{けんし}で噛^かもうとしてくる。かまれると痛い^{いた}ので気を付けよう。たまに釣れる。(福井)





■ ネズミゴチ KAUM-I. 29014, 体長 93.3 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ ネズミゴチ KAUM-I. 38077, 体長 86.1 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ ネズミゴチ KAUM-I. 42165, 体長 150.0 mm 長島町

特徴 体は細長く平たい。鱗がなく、つるつる。口は小さく下につく。背鰭は2つ。第2背鰭と臀鰭は長い。腹鰭は大きい。頭と体は茶色で、腹は白色。背鰭に網目模様がある。メスやオスの幼魚は第1背鰭に黒色の斑点を1個もつ。

分布と生態 岸に近い浅い海の砂底にすむ。海底にすむ小さな動物を食べる。南日本に分布し、鹿児島市では稲荷川の河口近くの砂浜や八幡川の河口で採集された。

メモ 釣りや投網でとれる。食用になり、天ぷらにするとおいしい。名前に“コチ”とあるが、コチ科の魚ではない。(松沼)





■ ドンコ KAUM-I. 10750, 体長 123.7 mm 栃木県



■ ドンコ KAUM-I. 4269, 体長 82.1 mm 鹿児島県

特徴 体は太い。背^せ鰭^{びれ}は2つ。第2背^せ鰭^{びれ}と臀^{しり}鰭^{びれ}はほぼ同じ長さ。腹^{はら}鰭^{びれ}は吸盤状でない。尾^お鰭^{びれ}は丸い。頭と体は濃い茶色から黒色でまだら模様がある。

分布と生態 一生を川^{じゅんたん}ですごす（純淡水魚とよぶ）。川の上流^{じょうりゅう}から下流^{かりゅう}の流れがおだやかなところにすむ。小さな魚やカニやエビなど甲殻類^{こうかくるい}を食べる。本州中部から九州にかけて分布^{ぶんぷ}し、鹿児島市の川では甲突川^{こうつぎ}、稲荷川^{いなり}の上流^{じょうりゅう}で見られる。

メモ ドンコは地域^{ちいき}によって遺伝^{いでんてき}的な特徴^{とくちょう}が異なることが知られている。鹿児島県の九州地方はドンコの世界的な分布^{ぶんぷ}の南限^{なんげん}。屋久島^{やくしま}・種子島^{たねがしま}から南の島には分布^{ぶんぷ}しない。（松沼）





■ カワアナゴ KAUM-I. 3657, 体長 107.8 mm 鹿児島市 永田川



■ カワアナゴ KAUM-I. 32669, 体長 193.9 mm 鹿児島市 甲突川



■ カワアナゴ KAUM-I. 40432, 体長 67.9 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体はやや長く、頭は平べったい。背^せ鰭^{びれ}は2つ。左右の腹^{はら}鰭^{びれ}はつながらない。尾^お鰭^{びれ}は丸い。体は茶色から黒色で、第1背^{だい}鰭^せは赤くふちどられる。

分布と生態 川の下流^{かりゅう}から河口^{かこう}にかけてすむ。砂や泥底の石の下や流木^{りゅうぼく}の下にひそむ。魚や甲殻類^{こうかくるい}などをよく食べる。稚魚^{ちぎょ}（子ども）は生まれると海にくだり、成長すると川にもどってくる。大きいものでは20 cmをこえる。本州中部から屋久島^{やくしま}にかけて分布し、鹿児島市では甲突川^{こうつき}と永田川^{ながた}でみられる。

メモ 手網^{てあみ}で水底の石や流木^{りゅうぼく}、岸近く^{かげ}の草の影を探るととれる。食用になるが鹿児島県では利用されていない。カワアナゴ科はハゼ科に近いグループ。（松沼）



ツマグロスジハゼ 川海

Acentrogobius sp. 2



■ ツマグロスジハゼ KAUM-I. 8816, 体長 34.7 mm 鹿児島市 甲突川



■ ツマグロスジハゼ KAUM-I. 8813, 体長 40.0 mm 鹿児島市 甲突川



■ ツマグロスジハゼ KAUM-I. 10125, 体長 40.1 mm 鹿児島市 愛宕川

特徴 体はやや長い。背^せ鰭^{びれ}は2つ。腹^{はら}鰭^{びれ}は吸盤^{きゅうばんじょう}状になる。体は薄^{うす}い茶色で、体側に5個の黒色の斑紋^{はんもん}、多数の小さな青色点がある。腹^{はら}鰭^{びれ}の先は黒色でふちどられる。

分布と生態 内湾^{ないわん}から河口^{かこう}の泥や砂底でみられる。テッポウエビ^{すあな}などの巣穴^{すあな}にすんでいることが多い。5 cm ほどまで成長する。南日本に分布し、鹿児島市では甲突川^{こうつき}と愛宕川^{あたご}の河口^{かこう}で採集されている。

メモ 生きているときは青色の模様が輝^{もよう}き、とてもきれいなハゼ。死ぬと青色の模様は消えてしまう。(松沼)





■ クモハゼ KAUM-I. 10693, 体長 49.0 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ クモハゼ KAUM-I. 6846, 体長 59.4 mm 鹿児島市 平川

特徴 体はずんぐりしており、頭が大きい。腹鰭が吸盤になっている。
背鰭は2つあり、前の背鰭は黄色で太くふちどられる。

分布と生態 全長で 10 cm ほどになるハゼ。海では潮だまりなどで、川では海の水がまざる河口でよくみられ、釣りでもたまに釣れる。鹿児島県の浅い海では、もっともよくみられるハゼで、稲荷川河口の海岸と永田川の河口で採集されている。

メモ 繁殖期のオスは、鰭があざやかな黄色みをおび、とてもきれい。クモハゼの仲間は、見分けるのがむずかしいが、前の背鰭が黄色で太くふちどられるのがクモハゼの特徴。(松沼)





■ タネハゼ KAUM-I. 4314, 体長 54.7 mm 鹿児島市 愛宕川



■ タネハゼ KAUM-I. 39168, 体長 42.0 mm 種子島



■ タネハゼ KAUM-I. 11333, 体長 42.1 mm 屋久島

特徴 体はやや長く、尾鰭が長く大きい。腹鰭は吸盤になっている。
鱗は小さく、体はややぬめぬめ。顔にひだ状の突起がたくさんある。体は茶色で、4本ほど黒い帯がある。10 cm くらいになる。

分布と生態 潮だまりや河口など浅い砂泥底でよくみられる。南の暖かい海で多くみられ、九州よりも北の地域では、太平洋側の暖かいところにしかない。鹿児島市では、甲突川と愛宕川の河口で採集されたことがある。

メモ タネハゼは、種子島で採集された標本をもとに1908年に新種として発表された。タネハゼの学名にある *tanegashimae* (タネガシマエ) はそのことに由来する。(松沼)





■ ドロメ KAUM-I. 8665, 体長 70.8 mm 鹿児島湾



■ ドロメ KAUM-I. 6847, 体長 68.8 mm 鹿児島湾



■ ドロメ KAUM-I. 75397, 体長 40.6 mm 長崎県

特徴 ややずんぐりした茶色のハゼで、体に白点がたくさんある。
尾鰭のつけねに黒色の斑点がひとつある。口が大きい。

分布と生態 鹿児島県の浅い海でよくみられるハゼ。潮だまりや
漁港でよくみられる。河口でもたまにとれる。大きいものでは 10
cm ほどになる。春に、港の中などで、小さな稚魚（子ども）が群で
泳いでいるのが観察できる。成長すると、海底におりて、底での生活
にかわる。稲荷川の河口の海岸で採集された。

メモ 漁港や堤防などでたまに釣れるが、ふつう食用にはしない。（松沼）





■ ヒモハゼ KAUM-I. 32492, 体長 36.6 mm 鹿児島市 永田川



■ ヒモハゼ KAUM-I. 3546, 体長 28.8 mm 日置市 神之川



■ ヒモハゼ KAUM-I. 39160, 体長 20.6 mm 種子島

特徴 名前のとおり、ヒモのように細長い。ハゼにみえないがちゃんと腹鰭が吸盤になっている。背鰭は2つあり、前のものはとても小さい。太い黒色の帯が1本ある。

分布と生態 5 cm ほどのハゼで、川と海の水がまざる河口でみられる。きれいな砂泥底にすみ、シャコ類やカニ類が掘った巣穴にすることが多い。鹿児島市内の川では、ヒモハゼがみられる川は限られており、永田川の河口でしかみつかっていない。

メモ ミミズハゼやウナギに似るが、背鰭が2つあることで見分けられる。ひじょうに細長いので、タモ網でとれても網目をくぐって逃げるが多い。つかまえたら、注意してバケツに移そう。(松沼)





■ ヒメハゼ KAUM-I. 39135, 体長 53.3 mm 種子島



■ ヒメハゼ KAUM-I. 10397, 体長 31.3 mm 鹿児島市 喜入生見

特徴 小さなハゼでスマートな体つき。うすい茶色で、体の中央に黒い点がならぶ。尾鰭のつけねに黒い模様がある

分布と生態 河口の砂泥底でみられ、シャコ類やカニ類の掘った巣穴にすむことが多い。小さなハゼで 6 cm ほどになる。鹿児島市内では、ほとんどの川の河口でみられ、稲荷川、甲突川、新川、愛宕川から採集された。

メモ 砂泥底の河口でよくとれる。一見すると地味だが、鰭のもようがきれいなハゼで、とれるとうれしい。ヒメハゼとゴクラクハゼの子どもは、よく似ているが、ヒメハゼの口は角ばり、ゴクラクハゼの口は尖る（横から見ると三角形）ことで見分けられる。（松沼）





■ ウロハゼ KAUM-I. 39054, 体長 102.0 mm 種子島



■ ウロハゼ KAUM-I. 5239, 体長 94.1 mm 種子島

特徴 ハゼの見本のようなハゼ型。体は太く、ずんぐりしており、
うろこ 鱗が大きい。口も大きい。体は茶色で、目立つ模様はない。

分布と生態 川の下流や河口など、川と海の水がまざるところでみ
られる。中流でもみられることがある。大きな石の下などにひそむ。
すなご 砂泥底も好む。大型のハゼで、大きなものでは 20 cm くらいになる。
鹿児島市内では、多くの川の河口や下流でみられ、稲荷川、甲突川、
ながた 永田川、あたご 愛宕川、すず 鈴川で採集されている。

メモ 捨てられたパイプの中によくいる。太いパイプをみつけたら、
片方を網の中にいれたまま、もう片方を持ち上げると、中のウロハゼ
が網にはいる。鹿児島県では食用にされない。(松沼)



川 スミウキゴリ

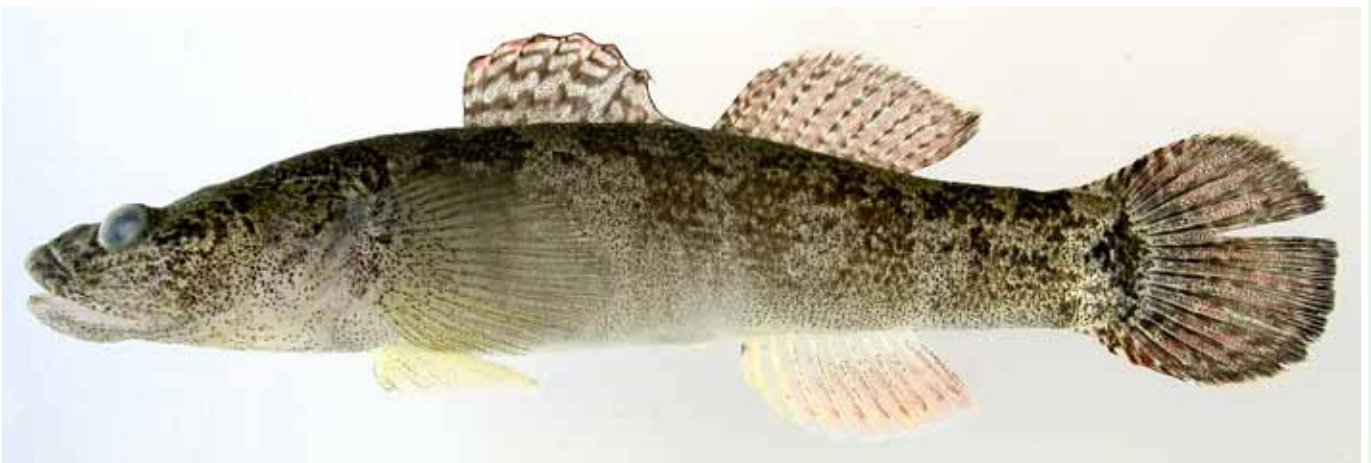
Gymnogobius petschiliensis



■ スミウキゴリ KAUM-I. 6127, 体長 98.7 mm 阿久根市 尻無川



■ スミウキゴリ KAUM-I. 10740, 体長 97.9 mm 栃木県



■ スミウキゴリ KAUM-I. 6269, 体長 89.3 mm 肝付町 久保田川

特徴 全長 10 cm ほどのハゼ。体はやや長く、ぬめる。口が大きく、
 下顎が上顎より長い。鱗は小さく目立たない。茶色でまだら模様がある。
 尾鰭のつけねに黒色の模様がひとつある。

分布と生態 小さな川を好み、川の河口から下流にかけてみられるが、上流部でみられることもある。大きな個体は、石の下などでじっとしていることが多い。水生昆虫や小さな甲殻類、魚類を食べる。鹿児島県では九州地方と種子島・屋久島に分布する。鹿児島市内の川では、川の長さが短い貝底川と鈴川で採集されている。

メモ 鹿児島市内では、南にある小さな川でしか採集されていない。(松沼)





■ クボハゼ KAUM-I. 2854, 体長 27.7 mm 鹿児島市 鈴川



■ クボハゼ KAUM-I. 4805, 体長 15.4 mm 出水市 境川

特徴 4 cm ほどの小型のハゼ。体はやや細長い。うすい茶色から褐色で、腹に「へ」の字の形の模様がたくさんある。

分布と生態 海と川の水がまざる河口でみられ、良好な砂泥干潟にすむ。シャコ類が掘った穴にすることがある。クボハゼがすむのに適した干潟が少ないため、鹿児島県ではクボハゼがみられる川は少ない。鹿児島市内では鈴川の河口で採集されている。

メモ 絶滅危惧種。埋め立てなどによる環境の変化で、クボハゼのすめる干潟のある川が減ってきている。

砂泥の干潟で、シャコ類やカニ類の巣穴があるようなところで、泥ごと網にいれて、水で洗い流すと採集できる。(松沼)





■ クツワハゼ KAUM-I. 1363, 体長 66.7 mm 南さつま市 笠沙



■ クツワハゼ KAUM-I. 47291, 体長 63.6 mm 鹿児島湾



■ クツワハゼ KAUM-I. 29005, 体長 49.0 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸

特徴 体はやや長い。吻（頭の先っぽ）が丸く突出する。鱗は大きく目立つ。薄茶色で、眼の後ろに長く黒い縞模様がある。鰓蓋に青白い点がいくつかある。8 cm ほどになる。

分布と生態 鹿児島県の九州地方の海でよくみられるハゼ。潮だまりや岩場のある海岸、漁港などでみられ、たまに釣れる。エビ・カニ類やゴカイ類などを食べる。稲荷川横の海岸で採集された。

メモ 小さいので食用にはされない。生きているときは、頬の青白い点がかや、きれいなハゼ。（松沼）



ミミズハゼ 川

Luciogobius guttatus

■ ミミズハゼ KAUM-I. 1278, 体長 56.4 mm 鹿児島市 稲荷川



■ ミミズハゼ KAUM-I. 1190, 体長 43.2 mm 鹿児島市 永田川



■ ミミズハゼ KAUM-I. 3762, 体長 35.8 mm 日置市 永吉川



■ ミミズハゼ KAUM-I. 66024, 体長 50.3 mm 長崎県

特徴 体は細長く、ぬめりがある。頭は平たい。腹^{はら}鰭は小さな^{びれ}吸^{きゅう}盤^{ばん}状だが、小さく目立たない。背^せ鰭は1つ。体色は透明感のある^{とうめいかん}褐色だが、個体によっておおきく異なる。全長7 cm ほど。

分布と生態 海の水がまざる河口や下流の転石の多いところでみられる。海岸の淡水が流入するところや湧水のあるところでもみられる。石の間をくねくねと素早く移動するのでつかまえるのがむずかしい。動物食で、ゴカイ類やヨコエビ類、甲殻類などを食べる。鹿児島市内では永田川水系の和田川の下流でよくみられる。甲突川の河口でも採集されている。

メモ 日本からはこれまでに22種のミミズハゼ属魚類が知られている。これらは互いによく似ており、分類がむずかしい。今後さらに種数が増える可能性がある。(松沼)





■ アベハゼ KAUM-I. 81888, 体長 24.7 mm 高知県



■ アベハゼ KAUM-I. 5509, 体長 47.3 mm 指宿市 二反田川



■ アベハゼ KAUM-I. 4863, 体長 26.6 mm 出水市 高尾野川

特徴 体はややスマート。背^{せびれ}鰭は2つあり、オスの第1背^{だい}鰭は糸状^{せびれ}にのびる。腹^{はらびれ}鰭は吸盤状^{きゅうばんじょう}。体色は、暗い灰色で、体の前のほうには暗色の横^{おうたい}帯が、後ろには2本の縦^{じゅうたい}帯がある。5 cm ほどになる。

分布と生態 河口や内湾などの海水と淡水がまざるところにすむ。干^{かんちょう}潮時の干潟^{ひがた}にできた潮だまりでも観察できる。水の汚れに強い^{しお}ため、多くの川でみられる。鹿児島市内では稲荷川^{いなり}、永田川^{ながた}、愛宕川^{あたご}、鈴川^{すず}で採集されている。

メモ よごれた川で、メタンガスが発生するようなところにもめる強いハゼ。(松沼)





■ ゴマハゼ KAUM-I. 50249, 体長 14.8 mm 種子島



■ ゴマハゼ KAUM-I. 50250, 体長 13.7 mm 種子島

特徴 とても小さいハゼで 2 cm ほど。体はややずんぐりしており、
透明。黒色の模様がある。背鰭は 2 つあり、前の背鰭は黒く、先端
は青白い、後方は黄色。

分布と生態 河口や海岸の淡水の影響が強い汽水域にすむ。流れの
ない場所をこのむ。底にはつかず、大群をつくり浮遊している。九州
地方ではゴマハゼがみられる川は限られる。鹿児島市内では愛宕川と
鈴川の河口で採集された。

メモ 日本産の脊椎動物のなかでは最小の動物。かつては
平川動物公園の近くにある障子川の河口にも生息していたようだが、
現在ではみられない。ゴマハゼがすむのに適した環境は、埋め立てや
河川工事などにより減ってきている。(松沼)





■ ヒナハゼ KAUM-I. 39035, オス, 体長 28.0 mm 種子島

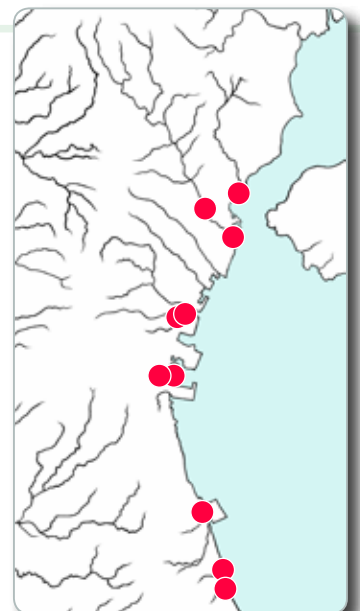


■ ヒナハゼ KAUM-I.8814, メス, 体長 27.3 mm 鹿児島市 甲突川

特徴 ^{こがた}小型のハゼで 4 cm ほど。体はずんぐりしており、オスはメスよりも顎が大きい。背^{せびれ}鰭は 2 つあり、オスの第 1 背^{だい}鰭はのびる。体は茶色で、黒い模様^{もよう}がある。背^{せびれ}鰭は黄色っぽい。

分布と生態 鹿児島県の汽水域でよくみられる代表的なハゼ類のひとつ。ただ、小さくあまり目立たない。河^{かこう}口や下流^{かりゅう}の流れがおだやかなところにすむ。鹿児島市内では多くの川でみられ、稲^{いな}荷^{なり}川、甲^{こう}突^{つき}川、永^{なが}田^た川、障^{しょう}子^じ川、愛^{あた}宕^ご川、貝^け底^{そこ}川、鈴^{すず}川で採集されている。

メモ ハゼ類は、オスとメスで、色や体の形が異なることが多い。これは性的二型という。ヒナハゼのオス（上の写真）は、メス（下の写真）とくらべて、前^{せびれ}にある背^{せびれ}鰭が糸のようにのび、口がやや大きい。一方、メスは卵をもつので、腹^{ふく}部が大きい。（松沼）



クロヨシノボリ 川

Rhinogobius brunneus

■ クロヨシノボリ KAUM-I. 38651, オス, 体長 68.0 mm 屋久島



■ クロヨシノボリ KAUM-I. 2736, メス, 体長 60.8 mm 鹿児島市 障子川



■ クロヨシノボリ KAUM-I. 11543, 体長 43.9 mm 屋久島

特徴 体はやや細い。腹^{はら}鰭^{びれ}は吸盤^{きゅうばんじょう}状。体は茶色、オスは全身が黒っぽい。オスの第1背^{だい}鰭^せは尖^{とが}る。尾^お鰭^{びれ}に点々^{ちよう}模様^{むなびれ}。胸^{むな}鰭^{びれ}のつけねに暗色の帯^{おび}が1本ある。尾^お鰭^{びれ}のつけねに上下に並ぶ、やや縦^{たて}長の黒点^{なが}が2つある。頬^ほに小さな赤点^{あか}がたくさんある。

分布と生態 流れが急な小河^{すいせいこんちゆう}川にすみ、石の多いところを好む。水生昆虫^{しょうじ}などを食べる。鹿児島市^{あたご}内では、障子川と愛宕川でみられ、長く大きな川にはいないようだ。

メモ ヨシノボリ^{るい}類など川にすむハゼの多くは、子どものときに海において、成長すると川にもどってくる。(松沼)



川 オオヨシノボリ

Rhinogobius fluviatilis

■ オオヨシノボリ KAUM-I. 10561, 体長 69.9 mm 鹿児島市 新川



■ オオヨシノボリ KAUM-I. 10563, 体長 55.7 mm 鹿児島市 新川



■ オオヨシノボリ KAUM-I. 10562, 体長 51.2 mm 鹿児島市 新川

特徴 体はやや長く、大型個体ではとくにスマート。体は暗い茶色。胸^{むなびれ}鰭のつけねの上のほうに、円形か三角形の黒い模様がある。背^{せびれ}鰭、臀^{しりびれ}鰭、尾^{おびれ}鰭は、褐色でふちどられるのみで、目立つ模様がない。尾^{おびれ}鰭のつけねに、カモメ状の太い黒色の帯^{ちよう}模様がある。

分布と生態 鹿児島県の九州地方は、本種^{ぶんぶ}の分布の南限。島には分布しない。長く大きな河川^{ちゆうりゆう}の中流から上流^{じゆうりゆう}にかけてみられる。流れのはやく、大きな石が多いところを好む。鹿児島市内では、甲突川^{こうつき}、新川^{しん}、永田川^{ながた}、五位野川^{ごいのさいしゅう}から採集されている。

メモ トウヨシノボリと見分けるのが困難な場合があるが、オオヨシノボリ^{おびれ}の尾^{おびれ}鰭^{おびれ}のつけねの帯^{おびれ}模様は力強い印象^{いんしやう}をうける。鹿児島県の九州地方に分布するヨシノボリ類のうちでは、最も大きくなる。(松沼^{こんなん})



ゴクラクハゼ

Rhinogobius similis

川



■ ゴクラクハゼ KAUM-I.39076, 体長 73.0 mm 種子島



■ ゴクラクハゼ KAUM-I.6655, 体長 38.4 mm 蒲生町 住吉池



■ ゴクラクハゼ KAUM-I.6654, 体長 34.2 mm 蒲生町 住吉池

特徴 体はやや長い。背^せびれ^{びれ}は2つ。腹^{はら}びれ^{びれ}は吸盤^{きゅうばんじょう}状。体は茶色で、黒い模様が1列にならぶ。頬^{ほほ}に赤^か色^{しよく}か褐色^{ちよう}のミミズ模^{はんしよくき}様がある。繁殖^{はんしよくき}期のオスの鱗^{うろこ}には青^{こう}色の光^{こう}沢^{たく}があり、鰭^{ひれ}は赤^{ちゆう}みが強^{りゅう}くなる。

分布と生態 河口^{かこう}でよくみられるが中流^{ちゅうりゅう}あたりにもいる。石の下^{かく}に隠^{かく}れる。鹿児島^{かりゆー}県^{かこう}では九州^{くしゅう}地方^{ちほう}から琉球^{りゅうきゅう}列島^{れつとう}まで広く分布^{ぶんぷ}する。鹿児島^{かりゆー}市^し内^{うち}では、稲荷^{いなり}川^{こう}、甲突^{こうつき}川^{がた}、永田^{ながた}川^{しょうじ}、障子^{しょうじ}川^{けそこ}、貝底^{けそこ}川^{すず}、鈴川^{すず}のおもに下流^{かこう}から河口^{かこう}でみられる。

メモ 子どもは海^{かい}で生活^{せいふ}したあとに、川^{かわ}にもどってくる。湖沼^{こしやう}やダム湖^{だむこ}に閉^ふじ込^こめられ、海^{かい}におりられたなくなっただものもいる。

そのほかのヨシノボリ類^{るい}とよく似^にるが、ゴクラクハゼ^{たいけい}は体^{たい}型^{けい}がずんぐりして頭^{あたま}が大^{おお}きく、頬^{ほほ}に太^{ちゆう}いミミズ模^{ちよう}様^{よう}があること^{こと}で見分^みけら^れる。(松沼)



川 シマヨシノボリ

Rhinogobius nagoyae

■ シマヨシノボリ KAUM-I. 6392, 体長 42.6 mm 志布志市 前川



■ シマヨシノボリ KAUM-I. 6399, 体長 32.1 mm 大崎町 田原川



■ シマヨシノボリ KAUM-I. 1025, 体長 47.3 mm 種子島

特徴 体はややずんぐり。背^{せびれ}鰭は2つ。腹^{はらびれ}鰭は吸盤^{きゅうばんじょう}状。体は茶色で、頬^{ほほ}に赤色のミミズ^{ちよう}模様がある。腹は青み^{むなびれ}がかかる。胸^{むな}鰭のつけねに、暗い帯^{ちよう}模様と黒色の斑点^{はんでん}が一つある。尾^{おびれ}鰭のつけねに、カモメ^{おびれ}形の黒い模様がある。尾^{おびれ}鰭の縞^{しま}模様がよく目立つ。

分布と生態 短い川^{かりゅう}に多い。下流^{ちゅうりゅう}から中流^{ちゅうりゅう}でみられる。石の多いところを好む。鹿児島市内では、脇^{わきた}田川、永^{ながた}田川、障^{しょうじ}子川、五位^{ごい}野川でみられる。

メモ ゴクラクハゼとよく似^にるが、シマヨシノボリの頬^{ほほ}のミミズ^{ちよう}模様は、ゴクラクハゼのものよりも細い。また、ゴクラクハゼには尾^{おびれ}鰭の縞^{しま}模様が^{はんしよくき}ない。繁殖^{ふくふ}期のメスの腹部^{あび}は、鮮やかな青色になり、とてもきれい。(松沼)



ルリヨシノボリ 川

Rhinogobius sp. CO



ルリヨシノボリ KAUM-I. 6692, 体長 61.1 mm 鹿児島市 甲突川

特徴 体はやや長く、頭は小さい。背^せ鰭^{びれ}は2つ。腹^{はら}鰭^{びれ}は吸盤^{きゅうばんじょう}状。体は茶色で、頬^{ほほ}に光沢のある青白点がたくさんある。尾^お鰭^{びれ}のつけねに、Y字形の黒色の模様^{もよう}がある。

分布と生態 長く大きな川にすむ。中流^{ちゅうりゅう}から上流^{じょうりゅう}でみられ、流れが速く、大きな石のあるところを好む。鹿児島県では九州地方でみられるが、ルリヨシノボリのすむ川は多くない。鹿児島市内では、甲突川^{こうつき}の上流にある支流^{しりゅう}でのみ生息^{せいそく}が確認^{かくにん}されている。

メモ 生きているときは、頬^{ほほ}にある青色の斑点^{かがや}が輝き、とてもきれいなハゼ。(松沼)



川 トウヨシノボリ

Rhinogobius sp. OR



■ トウヨシノボリ KAUM-I. 28033, 体長 34.7 mm 鹿児島市 松元ダム湖



■ トウヨシノボリ KAUM-I. 7344, 体長 44.7 mm 霧島市 天降川

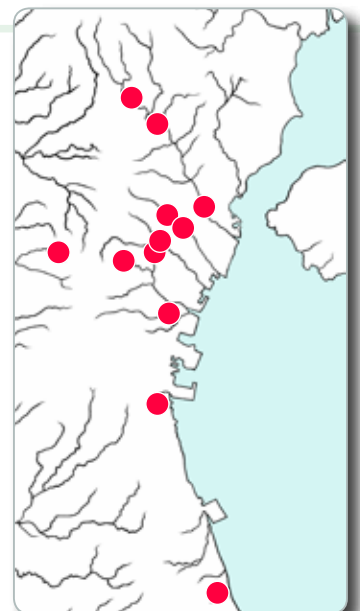


■ トウヨシノボリ KAUM-I. 28025, 体長 37.7 mm 鹿児島市 松元ダム湖

特徴 体はやや長く、頭は小さい。背^せ鰭^{びれ}は2つ。腹^{はら}鰭^{びれ}は吸盤^{きゅうばんじょう}状になる。体色は個体差^{こたいさ}が大きい。頬^{ほほ}に赤色の点^{ちよう}がたくさんある。胸^{むな}鰭^{びれ}のつけねに、赤色や黒色の模様^{おびれ}が1つある。尾^お鰭^{びれ}のつけねに黒色の帯^{おびれ}がある。個体^{こたい}もいるが、オオヨシノボリのように太くない。尾^お鰭^{びれ}のつけねから中央^{だいたい}にかけて 橙^{だいだい}色。

分布と生態 さまざま^{かんきょう}な環境^{かんきょう}にすみ、川^{かりゅう}の下流^{じょうりゅう}から上流^{じょうりゅう}にかけて広くみられる。ダム湖^こでもよくみられる。鹿児島^{ぶんぶ}県^{けん}では九州^{こうしゅう}地方^{ちほう}にだけ分布^{ぶんぷ}する。鹿児島^{しん}市内^{しん}では、甲突^{こうつき}川^{せん}、新^{わきた}川^{せん}、脇^{わきた}田^{せん}川^{せん}、甲突^{こうつき}川^{せん}、五位^{ごい}野^の川^{せん}、鈴^{すず}川^{せん}、松元^{まつもと}ダム湖^こなどでみられる。

メモ オオヨシノボリと見^み分^わけるのがむずかしいが、トウヨシノボリ^{おびれ}は、尾^お鰭^{びれ}のつけねにある黒^{くろ}い模様^{もよう}が弱^{じやく}い。(松沼)



ヌマチチブ 川

Tridentiger brevispinis

■ヌマチチブ KAUM-I. 6391, 体長 40.0 mm 志布志市 前川



■ヌマチチブ KAUM-I. 6326, 体長 37.0 mm 肝付町 肝属川



■ヌマチチブ KAUM-I. 1175, 体長 20.1 mm 鹿児島市 和田川

特徴 体はずんぐり。背^せ鰭^{びれ}は2つ。腹^{はら}鰭^{びれ}は吸盤^{きゅうばんじょう}状。体は黒色。第1^{だい}背^せ鰭^{びれ}に、3本の茶色や赤色の細い縞^{しま}模様^{よう}がある。頭^{かしら}に、小さな白点^{しろいしち}がたくさんある。

分布と生態 川の海水がまじる河^か口^{こう}から中^{ちゅう}流^{りゅう}までみられる。流れがゆるやかなところを好む。雑^{ざっ}食^{しよく}性^{せい}で藻^{そう}類^{るい}や小^{せう}さな動物^{どうぶつ}を食べる。鹿児島^{かりゆ}県^{けん}内^{うち}では、九州^{きゅうしゅう}地^ち方^{ほう}に広^{ひろ}く分^{ぶん}布^ぷする。鹿児島^{かりゆ}市^し内^{うち}では、永^{なが}田^た川^{がわ}の下^{した}流^{りゅう}で採^{さい}集^{しゅう}された。

メモ チチブによく似^にるが、チチブの第1^{だい}背^せ鰭^{びれ}には、はっきりとした縞^{しま}模様^{よう}がないことで見^み分^わけらる^る。(松沼)





■ チチブ KAUM-I. 5059, 体長 87.1 mm 鹿児島市 永田川



■ チチブ KAUM-I. 8836, 体長 76.5 mm 鹿児島市 和田川

特徴 体はずんぐり。背^{せびれ}鰭は2つ。腹^{はらびれ}鰭は吸盤状。体は黒色。頭に、小さな白点がたくさんある。胸^{むなびれ}鰭のつけねに黄色の帯模様がある。やや大型^{おおがた}のハゼで15 cmほどになる。オスの第1背^{だいいせびれ}鰭は糸状にのびる。

分布と生態 川の海水がまじる河口から中流までみられる。流れがゆるやかなところを好む。雑食性^{ざっしょくせい}で藻類や小さな動物を食べる。鹿児島県内では、九州地方に広く分布^{ぶんぷ}する。鹿児島市内では、多くの川の河口^{かこう}でみられ、稲荷川^{いなり}、甲突川^{こうつき}、新川^{しん}、脇田川^{わきた}、永田川^{ながた}、障子川^{しょうじ}、鈴川^{すず}で採集されている。

メモ ヌマチチブよりも汽水^{きすい}(海の水がまじるところ)を好むようだ。(松沼)



サツキハゼ 川海

Parioglossus dotui

■ サツキハゼ KAUM-I. 8812, 体長 31.4 mm 鹿児島市 甲突川



■ サツキハゼ KAUM-I. 21615, 体長 23.7 mm 屋久島

特徴 ^{こがた}小型のハゼで 4 cm ほど。体はやや長く、横に平たい。口は ^{はらびれ} ^{きゅうばんじょう}ななめにつく。腹鰭は吸盤状ではない。黄色みのある灰色で、眼から ^{おびれ} ^{おびれ} ^{こくはん}尾鰭のつけねにかけて 1 本の黒帯がある。尾鰭の黒斑は横に長い長方形。

分布と生態 ^{えいきょう} ^{かこう}海水の影響が強い河口や、港などおだやかな ^{ないわん}内湾でみられる。河口では、橋の橋脚や壁のまわりに群れることが多く、おどろくと、^{かべ} ^{かきがら}壁についた牡蠣殻の間に逃げる。鹿児島市内では、^{いなり}稲荷川と ^{かこう}甲突川の河口でみられる。

メモ ベニツケサツキハゼといっしょに ^{たいぐん}大群をつくる。小さいが、とてもきれいなハゼ。(松沼)



海川 ベニツケサツキハゼ

Parioglossus philippinus

ベニツケサツキハゼ KAUM-I. 10694, 体長 27.6 mm 鹿児島市 稲荷川



ベニツケサツキハゼ KAUM-I. 81877, 体長 34.6 mm 高知県



ベニツケサツキハゼ KAUM-I. 8817, 体長 27.6 mm 鹿児島市 甲突川

特徴 小型のハゼで 4 cm ほど。体はやや長く、横に平たい。口は、はらびれ きゅうばんじょうななめにつく。腹鰭は吸盤状ではない。黄色みのある灰色で、眼からおびれ尾鰭のつけねにかけて 1 本の黒帯がある。尾鰭の黒斑は三角形か丸い。

分布と生態 海水の影響が強い河口や、港などおだやかな内湾で見られる。河口では、橋の橋脚や壁のまわりに群れることが多く、おどろくと、牡蠣殻の中や物陰に逃げる。鹿児島市内では、稲荷川、甲突川あたこ愛宕川の河口で見られる。

メモ サツキハゼによく似るが、おびれ尾鰭にある黒い模様の形が異なる。ベニツケサツキハゼでは、丸いか三角形だが、サツキハゼでは長方形で横に長い。(松沼)



クロホシマンジュウダイ 川海

Scatophagus argus



■ クロホシマンジュウダイ KAUM-I. 8815, 体長 34.0 mm 鹿児島市 甲突川



■ クロホシマンジュウダイ KAUM-I. 938, 体長 16.3mm 鹿児島市 永田川



■ クロホシマンジュウダイ KAUM-I. 27574, 体長 235.8 mm 鹿児島湾

特徴 体は、横から見て丸いか、六角形に近い。頭は小さく、口はとがる。黒色から緑がかった灰色。幼魚は体に縞模様があるが、成長するにつれて斑点模様になる。

分布と生態 南の暖かい海にすむ魚で、日本では琉球列島で多くみられる。鹿児島湾内と湾に流れ込む川では、幼魚から成魚までみられる。大隅半島の河口では、体長 2-3 cm の幼魚が群れているのがしばしば観察される。鹿児島市の川では、永田川と甲突川から採集されている。

メモ ふだんは、流木などの陰に隠れている。およぐときは落ち葉が流れるようにおよぎ、天敵の目をごまかして身を守る。

東南アジアでは、一般的な食用魚だが、日本ではほとんど利用されていない。(福井)





■ アミメハギ KAUM-I. 28996, 体長 41.7 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ アミメハギ KAUM-I. 28999, 体長 34.3 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸



■ アミメハギ KAUM-I. 28997, 体長 35.3 mm 鹿児島市 稲荷川河口横の海岸

特徴 カワハギの仲間^{なかま}で、体は丸く、横に平たい。体は茶色で名前の通り^{あみめちよう}、網目模様をもつ。背鰭^{せびれ}の棘^{きよく}は固くとがる。

分布と生態 浅い海^{かいそう}の海藻^{かいそう}の生えるところ^{いなり}で多くみられる。鹿児島市では、稲荷川横の海岸^{いな}でとれた。

メモ カワハギの仲間^{なかま}でも小さい種^{かいつう}で、大人でも7cmほどにしかない。夜は、海藻^{かいそう}をくわえて眠る様子^{かんさつ}が観察できる。大きくならないので食用にならない。

海藻^{かいそう}の生えるところは、藻場^{もば}とよばれる。藻場^{もば}は、たくさんの生きものが成長したり、餌^{えさ}をとる場所で、海の生きものにとって大切な場所だ。(福井)



クサフグ 川 海

Takifugu niphobles



■ クサフグ KAUM-I. 5060, 体長 132.6 mm 鹿児島市 永田川



■ クサフグ KAUM-I. 5015, 体長 127.8 mm 鹿児島市 永田川

特徴 体はやや細長い卵型で、^{うろこ}鱗がない。背中に多くの白い点がある。
^{むなひれ}胸鰭のつけねの後ろに大きな黒い点がある。

分布と生態 ^{ぎょこう}漁港など波のないところでよくみられる。川では、
^{かこう}河口でよくみられる。春から初夏にかけて、^{しよか}海岸に^{たいぐん}大群でおしよせて
 卵を産む。鹿児島市では、多くの川の^{かこう}河口でみられ、^{ながた}永田川と^{けそこ}貝底川
 で^{さいしゅう}採集されている。

メモ ^{げどう}釣りの外道でよく釣れる。釣りあげると「きゅっきゅっ」と
 音を出す。^{ないぞう}内臓などに^{どく}毒をもつので、食べずに観察するだけにしよう。
 (福井)



この冊子は、NPO 法人かごしま市民環境会議の村山雅子さんと高山真由美さんが、長年にわたり主催されてきた鹿児島市の河川と稲荷川河口の海岸での自然観察会と、鹿児島大学総合研究博物館が行った調査で得られた成果をもとに作製しました。これまでに行ってきた淡水魚の調査では、つぎにあげる個人・団体の皆様に多大なご協力をいただきました。松元ダム湖での調査にあつたてさまざまな便宜を図ってくださった鹿児島市松元土地改良区の吉村清美さん、和田了子さん、四元成子さん、滋賀県立琵琶湖博物館の中井克樹さん。自然観察会で講師を引受けていただいた出羽慎一さん(ダイビングサービス海案内)、池 俊人さん(鹿児島県立博物館学芸主事)、米沢俊彦さん(鹿児島県環境技術協会)、行田義三さん(日本貝類学会会員)、徳永修治さん(新和技術コンサルタント株式会社 環境調査部環境調査課)。おもに甲突川水系での調査にあたつてご協力をいただいた鹿児島市環境未来館と鹿児島市環境局環境部環境保全課、NPO 法人メダカの学校かごしまの職員の皆様。園内を流れる五位野川での調査の機会と便宜を図ってくださった公益財団法人鹿児島市公園公社平川動物公園の職員の皆様。自然観察会に参加していただいた参加者の皆様。長年にわたり鹿児島市の河川での魚類相調査と標本収集をしてこられた鹿児島大学総合研究博物館 魚類分類学研究室の学生・卒業生、ならびにボランティアの皆様。また、ここにあげることができなかったさまざまな方々にご協力いただきました。以上の方々のお力添えとご尽力がなければ、このような形でとりまとめることはできませんでした。心よりお礼を申し上げます。



まつぬま みずき

■ 松沼 瑞樹

博士（農学）。高知大学理学部海洋生物学研究室・日本学術振興会特別研究員 PD。
専門はフサカサゴ科ミノカサゴ亜科魚類の分類学。

ふくい よしの

■ 福井 美乃

鹿児島大学大学院連合農学研究科・博士課程 1 年。
専門はベラ科魚類の分類学。

もとむら ひろゆき

■ 本村 浩之

博士（農学）。鹿児島大学総合研究博物館，館長，教授（鹿児島大学大学院連合農学研究科教授を兼任）。
専門はフサカサゴ科魚類の分類学。



鹿児島市の川魚図鑑

ISBN	978-4-905464-06-8
発行日	2016 年 8 月 1 日
編著者	松沼瑞樹・福井美乃・本村浩之
DTP	松沼瑞樹
発行所	鹿児島大学総合研究博物館 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 Tel: 099-285-8141; fax: 099-285-7267 http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/
印刷所	株式会社朝日印刷 〒 890-0055 鹿児島市上荒田町 55-1 Tel: 099-251-2191; fax: 099-253-7331

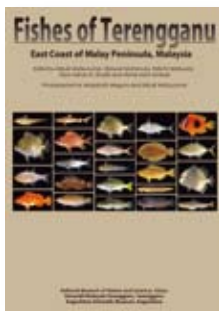
Citation:

松沼瑞樹・福井美乃・本村浩之. 2016. 鹿児島市の川魚図鑑. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市. 86 pp., 221 figs.

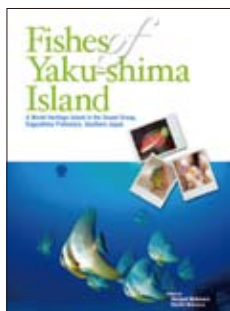
Matsunuma, M., Y. Fukui and H. Motomura. 2016. Freshwater fishes of Kagoshima City, southern Kyushu, Japan. The Kagoshima University Museum, Kagoshima. 86 pp., 221 figs.



【英語版】Motomura, H. and S. Ishikawa (eds.). 2013. Fish collection building and procedures manual. English edition. The Kagoshima University Museum, Kagoshima and the Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto. 70 pp.



Matsunuma, M., H. Motomura, K. Matsuura, N. A. M. Shazili and M. A. Ambak (eds.). 2011. Fishes of Terengganu – east coast of Malay Peninsula, Malaysia. National Museum of Nature and Science, Tokyo, Universiti Malaysia Terengganu, Terengganu, and Kagoshima University Museum, Kagoshima. viii + 251 pp., 678 figs.



Motomura, H. and K. Matsuura (eds.). 2010. Fishes of Yaku-shima Island – A World Heritage island in the Osumi Group, Kagoshima Prefecture, southern Japan. National Museum of Nature and Science, Tokyo. viii + 264 pp., 704 figs.

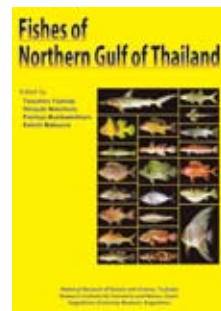


本村浩之・松浦啓一(編). 2014. 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市・国立科学博物館, つくば市. 648 pp., 1808 figs.

鹿児島大学総合研究博物館発行の魚類学シリーズ



【日本語版】本村浩之(編著). 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市. 70 pp.



Yoshida, T., H. Motomura, P. Musikasinthorn and K. Matsuura (eds.). 2013. Fishes of northern Gulf of Thailand. National Museum of Nature and Science, Tsukuba, Research Institute for Humanity and Nature, Kyoto, and Kagoshima University Museum, Kagoshima. viii + 239 pp., 621 figs.



本村浩之・出羽慎一・古田和彦・松浦啓一(編). 2013. 鹿児島県三島村 — 硫黄島と竹島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島市・国立科学博物館, つくば市. 390 pp., 883 figs.



鹿児島大学総合研究博物館発行の魚類学シリーズは
以下のサイトからダウンロードできます。
<http://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/staff/motomura/dl.html>

